



議事  
演說  
討論

# 傍聽筆記新法

全

神田乃武校訂

黑岩大  
日置益

譯補  


丸善藏版

議事  
演說  
討論

# 傍聽筆記新法

全

神田乃武校訂

黑岩大  
日置益

譯補

丸善藏版

神田乃武校訂  
黑岩大  
日置益  
譯補

議事  
演說  
討論

傍聽筆記新法附錄讀法練習

丸善藏板

明治十五年九月十六日版權免許  
明治十六年七月 出版

譯補者 高知縣士族 黑岩大

譯補者 三重縣平民 日置益

出版人 東京府平民 丸家善七

日本橋區通三丁目十四番地

神田區駿河臺東紅梅町二番地寄留

傍聽筆記新法序

方今譯泰西書者日多一日世之欲窺彼學術者輒得就邦文而知之可謂至便矣然有某書而無某書有者益多無者愈少其故何也或譯述之難易使之然也或世人之好惡使之

然也若夫不擇難易不顧好惡以裨  
補斯文者余未多見也頃者黑岩大  
日置益二子袖一書來徵余序受而  
觀之蓋原英人速寫法更擴其說者  
嘗聞此書意義錯雜極難解其著譯  
之勞可想矣夫欲筆人語言而傳之

其心專於語言則失於筆專於筆則  
失於語言况本邦語言與文辭異其  
體乎是世之所以病速寫之不易也  
人苟能就此書得此法用諸議院用  
諸法廷用諸講筵用諸演說場無復  
誤聞謬寫之患其便果如何哉抑孟

子有言曰梓匠輪輿與人規矩不能  
使人巧今學此書至巧與否亦存乎  
其人矣是為序

明治十五年十一月 信松辻新次撰

緒言

我國輒近文明駸々日ニ進ミ政治法律其他百般ノ藝術悉ク歐米ニ慕シ  
殆ント備ハラサルナシ盛ホリト云フヘシ然ルニ獨リ恠ム未タ一人ノ  
疾書法ヲ講スルモノナキヲ聞ク泰西諸邦ニ於テハ此疾書法大ニ行ハ  
レ英人ピットマン氏ノ著書疾書原材ノ如キハ二十八年間ニ無慮五十余  
萬卷ヲ發賣セリト是レ會議演說ノ盛ナルニ從テ益々必要ナレハナ  
リ我國近時會議演說盛ニ行ハレ國會開設ノ期モ已ニ定リタルヲナレ  
ハ疾書法ヲ講スルノ時モ已ニ迫レリト云フヘシ世ニ會議演說ノ筆記  
ナキニアラスト雖ヒタゞ其論旨ヲ理解シ之レカ大意ヲ記スルニ過キ  
サレハ縱令論者ノ雄辯鬼神ヲ感動セシムルノ妙アルモ如何セン記者  
ノ筆下ニ埋没ノ其伎倆ヲ看ルニ由ナシ之ヲ彼ノ泰西諸邦ニ行ハル、  
處ノ一句一言タモ脱漏變化スルコトナク其筆記ヲ讀メテ親ク其人ニ聞

クカ如キモノニ比スレハ其精粗便否豈ニ管宥壤ノミナランヤ吾輩茲ニ憂ル所アリ筆記法ノ改良ヲ俟ツ數年未タ之ニ從事スル者アルヲ見サルナリ於是才ヲ顧ミテ泰西ノ法ニ則リ此書ヲ編ス若シ夫レ適用ノ失セル所アリ次序ノ正ラサルアラハ大方ノ君子幸ニ之カ改良ヲ加ヘテ完全ナラシメ世ノ文明ヲ進動スルノ具トナセヨ吾輩モ亦敢テ斯ニ忘ラサルナリ

明治十六年 月

編者識

小引

書材

一 筆記用筆ニハ鋼鍊洋筆ヲ以テ最良トナスト雖ヒ或ハ黃金洋筆又ハ鉛筆ヲ用ユルモ可ナリ  
 一 筆記用ノ野紙ハ洋筆ヲ用ユルキハ勿論洋紙ヲ要スト雖ヒ鉛筆ナルキハ無膠洋紙或ハ堅質ノ日本紙ヲ用ユルモ可ナリ

揮筆

一 我國ノ書法ニ於テハ筆動專ラ上下ニアリト雖ヒ斯クテハ機械學的ヨリ論スルニ數多ノカト時トヲ要スルヲ以テ疾書ニ便ナラス故ニ此書ハ專ラ歐洲ノ法ニ倣ヒ横行ニ書スルカ故ニ持筆ノ体裁自ラ變セサルヲ得サルナリ

一 筆ヲ把ルニハ第一指第二指間ニ筆ヲ挾ミ大指ヲ以テ確ト保持スル

議事  
演說 傍聽筆記新法  
討論

目次

- 第一章 略字ヲ用ルノ理由
- 第二章 記號ニ寫ス可キ語音ノ事
- 第三章 記號ヲ語音ニ配當スル事
- 第四章 實用ニ就ヒテノ指示
- 第五章 記號連續ノ法
- 第六章 習熟ノ法
- 第七章 同音ノ連用并ニ逼音ノ事
- 第八章 短句ノ筆記
- 第九章 結局ノ教訓

議事  
演說傍聽筆記新法  
討論

神田 乃武 校訂

黒日 置 大益 譯補  
岩

第一章 零字ヲ用ルノ理由

我國古來漢字片假名平假名等ノ文字久ク世ニ行ハレタリ就中漢字ハ  
其用最モ廣シト雖<sub>レ</sub>字畫錯雜ニシテ疾書ニ便ナラズ加フルニ我が通  
常ノ俗語ト甚ク相異ナル者アルヲ以テ毫モ平常ノ談話ヲ差ヘズノ筆  
寫スルヲエズ獨リ片假名平假名ハ能ク俗語ヲ遺漏ナク記スルヲ得可  
ク且ツ其字畫モ漢字ニ比スレバ少シク簡易ナル者アリト雖<sub>レ</sub>字形屈  
折多クシテ一揮ノ筆勢ヲ以テ數多ノ文字ヲ連書スルノ用ニ供スル  
能ハザレハ未タ以テ眞ノ筆記ヲ爲スニ適セサル者アリ且ツ又我國ノ

假名タル漢字ヲ雜エスシテ之ヲ書スルキハ爲ニ解了シ難キ者甚々多シ今此ノ弊ヲ避ケンカ爲ニ句讀圈點ヲ加ヘテ語脈ヲ明ニセンカ揮筆益々煩コシテソノ神速ヲ妨クルヲ愈ヨ大ナルヲ如何セン況ンヤ我カ假名タル假令ヘ句讀圈點ヲ加ヘサルノ時ト雖ヒ猶其字畫ノ多クシテ眞ノ筆記ヲ爲スコ堪エサル者アルオヤ故ニ今此假名ヲ改正シテ筆記ノ用ニ供セントスルモ其目的ヲ達スルヤ甚々難キカ故ニ寧ロ別ツニ一機軸ヲ出タシ以テ完全ナル筆記ニ堪ユルノ記號ヲ創スルニ如カズ是レ則チ茲ニ新ニ記號ヲ作ル所以ナリ

夫レ新ニ記號ヲ作ルノ目的既ニ右ノ如クナルヲ以テ其目的ヲ達センカ爲ニハ最モ簡單ナル者ヲ撰バサル可ラズ而シテ今苟クモ筆ヲ以テ記ス可キ記號ハ其種類數多アリト雖モ之ヲ大別スレハ點及ビ線ノ二者ニ外ナルヲ能ハズ故ニ茲ニ此記號ヲ作ルニハ線及ヒ點ヲ以テ基礎ト

シ其最モ簡單ナル者ヲ採擇セシトス

線及ヒ點ノ種類

線ノ種類甚々多シト雖モ其ノ最モ簡單ナル者ハ一點筆ニ書スルヲ得ル者ニ如クハナシ而シテ一點筆ニ書スルヲ得ル者ハ———ノ四種ナリ而シテ線ニ曲直ノ二様アルヲ以テ右四個ノ直線ニ象ツテ八個ノ曲線ヲ作ル可シ其内四線ハ右向ノ曲線ニシテ残りノ四個ハ左向ノ曲線ナリ右向ノ曲線ハ右ニ曲リタル者ナリ則チ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )ノ四個ニシテ左向ノ曲線ハ左ニ曲リタル者ニテ即チ( ) ( ) ( ) ( )ノ四個トス左ノ圖ニ就ヒテ各種ノ異同ヲ知ル可シ



右ニ於テ既ニ十二個ノ異線ヲ得タリ之レニ次デハ小環ニ基ヒテ四個

ノ線ヲ作ル可シ即チ(○)環ヲ縦ニ裁斷シタル者ヨリ二種横ニ裁斷シタル者(∪)二個アリ之レニ次ヒテ前ニ記シタル直線ノ短キ者ヲ作ル可シ即チ(∪)ノ四個ナリ是ニ於テ既ニ總數二十個アリ而シテ此二十個ノ線ヲ別ツテ各二種ト爲ス可シ重線及ヒ輕線是ナリ重線トハ筆力重キ者(—) (∪)ノ如キヲ云フ今二十個ノ線ヲ悉ク輕重ノ二種ト爲スヲ以テ其總數四十個アリトス

第二章 記号ニ寫ス可キ語音ノ事

文字若クハ記號ハ言語ノ音ヲ表スル者ナルカ故ニ其數ハ語音ノ數ト同一ナラサル可ラズ而シテ今我が國ノ言語ヲ考フルニ凡ソ九十六個ノ音ニ原ヒテ組織セル者ナリ今其表ヲ示サン  
(或ハ殆ント同音ノ者アリト雖ヒ總テ古昔ヨリノ慣習ナルヲ以テ

第一 正音表

ア	カ	サ	タ	ナ	ハ	マ	ヤ	ラ	ワ
イ	キ	シ	チ	ニ	ヒ	ミ	イ	リ	ヰ
ウ	ク	ス	ツ	ヌ	フ	ム	ユ	ル	ヱ
エ	ケ	セ	テ	ネ	ヘ	メ	エ	レ	ヮ
オ	コ	ソ	ト	ノ	ホ	モ	ヨ	ロ	

此表中ニハ兩存スト雖ヒ亦タ古來ノ慣用ニ洩レタル者モ要用ナル者ハ拾載ス)

第二 變音表

ガ	ザ	ダ	バ	パ	シ	チ	ヤ	ヂ	ン
ギ	ジ	ヂ	ビ	ピ	シ	チ	ヤ	ヂ	
グ	ズ	ヅ	ブ	プ	シ	チ	ヤ	ヂ	
ゲ	ゼ	デ	ベ	ペ	シ	チ	ヤ	ヂ	
ゴ	ゾ	ド	ボ	ポ	シ	チ	ヤ	ヂ	

右ハ則チ我カ國ニテ用ユル原音ノ概表ナリ此ニ由テ之ヲ觀ルキハア  
 イウエオトヲ井ウエヲトハ其字モ異ニシテ又タ其音モ同シカラスト  
 雖モ實用ニ於テハ甚ダシキ差異アルヲナシ而シテ此筆記法ハ簡單ナ  
 旨トスルカ故ニ井ウエチノ四音ヲ除キテイウエオノ四音中ニ兼併セ  
 シムヤイユエヨノイエモ前者ト同キヲ以テ刪除シ又タザ行ノジズト  
 ダ行ノヂヅ併ニシヤ行ノシヤジトヂヤヂイ等又タタ行ノチトチヤ行ノチイノ  
 如キモ前者ト等キヲ以テ刪除シシハシニチイハチニジジイヂイ等ハヂニズ  
 ハヅニヂヤハジヤニ兼併セシム故ニ此ノ十三音ヲ除ケハ餘ハ則チ八十三  
 音ナリ之ヲ此ノ筆記法ニテ用ユルノ原音ト定ム  
 以上ノ語音ニ新製ノ記號ヲ充用スルハ本書ノ目的ナリ然レモ之ヲ充  
 用スルニ先ツテ是等諸音ノ性質ヲ檢セサル可ラズ故ニ是ヨリ進ンテ  
 各音ノ性質ヲ論ス可シ

右ノ諸音ヲ別テハ母音及ヒ子音ノ二種トナルアイウエオノ五音ハ即  
 チ母音ニシテ他ハ皆子音ナリ今母音ノ性質ヲ考フルニ甚ダ單純ニシ  
 テ司聲官一勢ノ働チ以テ容易ニ發スルヲ得可シ而シテ此音ハ聲ヲ長  
 ク引クモ毫モ他音ヲ混スルヲナシ例之ヘハアノ音ハ之ヲ長ク引ケバ  
 ア——トナリイノ音ヲ長クスレバイ——トナリテ決シテ他ノ音ニ變  
 スルヲナシ

然ルニ子音ハ全ク右ト異ナリテ司聲官一勢ノ働チ以テ發スルヲ能ハ  
 ス且ツ又タ母音ノ如ク單純ナル者ニ非ラス故ニ之ヲ長ク引ク時ハ變  
 シテ他ノ母音ト爲ルナリ假令ヘバカノ音チカ——ト長ク引クキハ變  
 シテアノ音ヲ生シキノ音ヲ引クキハキ——ト爲リテ是レ又タ母音イ  
 ノ音ヲ生ス可シ各子音總テ然ラサルハナキナリ

由是觀之レハ母音ハ一個音ヨリ成立シテ毫モ他ノ音ヲ混スルヲナキ





某ノ音ニ某ノ符ヲ配當セシヤノ理由ヲ論ス可シ  
 長体記號ヲ以テ父音ニ配當シ短体記號ヲ以テ母音ニ配當セシハ母父  
 兩音ノ記號ヲシテ區別分明ナラシメンカ爲ナリ  
 何故ニ上向半環ノ線ヲ以テア音ノ符トナセシヤコレア音ヲ發スル  
 キハ口頭大ニ開ケ口氣上ニ散スレハナリ  
 下向半環ヲ以テイ音ノ符ト爲セシハイ音ヲ發スルキハ口頭ノ開ク  
 ルノ最少ニシテ口氣下方ニ散スルニ由ルナリ  
 ウ音ノ記號ヲ作ルニ一ノ線ヲ以テモシムウ音ヲ發スルキハ上下ノ兩  
 唇前面ニ突出シ一字形ヲ爲シテ口氣平横ニ散スレハナリ  
 何故ニクノ線ヲ以テエ音ノ記號トナセシヤ即チエ音ヲ發スルキハ口  
 頭半開トア音ヲ發スル時トイ音ヲ發スル時ノ半途ニ在ルヲ以テナリ  
 一ノ記號ヲ以テオ音ニ配當セシハ何故ニ自クオ音ヲ發スルキハウ音

ヲ發スルキハ如ク兩唇前ニ突出シ而シテ加ラシム兩頰狹窄ナル故  
 ニ一ノ字ヲ縱ニ爲シタル如キ形ヲ呈スレハナリ  
 右ハ則チ母音ニ配當シタル記號ヲ説明シタル者ナリ是ヨリ父音ニ配  
 當シタル記號ヲ理由ヲ説ク可シ  
 ク音ニ配當スルニ一ノ線ヲ以テセシムハカ行ノ各音ハ皆咽喉ニ生スルナリ  
 而シテ咽喉ハ斜ニシテ坂形ヲ爲スガ故ニ斜線ヲ以テ此音ニ代タルナリ  
 ス音ヲ發スル時ハ舌齒口蓋等三機關ノ働ニ成リテ舌下口蓋ノ間ニ空  
 隙ヲ生シ其間ヨリ口氣外ニ通シテ此音ヲ爲スヲ以テス音ニ配當スル  
 ニ一ノ線ヲ以テセシムハ何故ニ此音ヲ發スルキハ  
 ツ音ニ配當スルニ一ノ線ヲ以テセシムハ何故ニ此音ヲ發スルキハ  
 ハ舌ヲ全部上ヲ口蓋ニ接シ口氣ハ其舌ト口蓋ノ隙ヨリ平横線ノ方向

ニ發出スレバナリ  
 ( )ノ線ヲ以テ又音ノ記號ニ充用セシハ此音ヲ發スル時ハ舌端上口蓋  
 ノ前部ニ觸レ舌ノ形彎曲シ口氣ハ其彎曲ニ添テ弓様ニ出ツレバナリ  
 右等ノ如ク各記號ハ皆ナ語音學ノ原則ニ依リテ各音ニ配當セシ者ナ  
 リ然レハ斯ノ如キ小冊子ニ於テ理論上ヨリ詳細ノ説明ヲナスハ反ツ  
 テ便益ナカル可キヲ以テ他ハ省畧ニ從フ

既ニ母音及ヒ正音ノ父音符等ヲモ定メタレバ茲ニ正音全數ノ表ヲ掲  
 ケ而ル後ニ變音ノ符ニ進入ス可シ然レバ之ニ先ツテ子音ノ記號ヲ作  
 ルノ法ヲ一言セントス  
 茲ニカナル子音アランニ此音ハ如何ナル父母ヨリ生シタル者ナルガ  
 即チ第九葉ニ掲ケタル音表ヲ閱スルキハ此音ハ母音ア及ヒ父音クノ  
 合シタル者ナルヲ見ル可シ故ニ此ノ音ノ符ヲ作ルモ亦タ之レト同シ

クア音ノ記號(レ)トク音ノ符(ハ)ヲ合シタル者ヲ用ヒト爲ス可シ之  
 レト同シクシ音ノ符ヲ作ルニハシ音イナル母音トスナル父音ノ合  
 シタル者ナルガ故ニ其母音イノ記號(ハ)ト父音スノ記號(ト)ヲ合シタ  
 ル者即チ(ト)トス可シ他モ皆此理ニ基ツク其詳細ハ左表ヲ見ハ明ナル  
 可シ

ア	ウ	イ	ハ	ウ	エ	オ
カ	キ	ク	ケ	コ		
サ	シ	ス	セ	ソ		
タ	チ	ツ	テ	ト		
ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ		
ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ		

マ	ヤ	ラ	ワ
メ	イ	リ	ヰ
ム	ウ	ル	ヱ
モ	エ	レ	ヰ
ミ	オ	ロ	ヱ
ム	カ	ク	ク

是ヨリ前約ナ守リ變音ノ符ヲ作ラントス變音ハ前表ニ掲ケタル如ク濁音半濁音及ヒ<sup>○</sup>チ<sup>○</sup>ヤ<sup>○</sup>等ノ諸音ヨリ成ル者ナリ今便利ノ爲ニ先ツ半濁音ヨリ始ム可シ

母音<sup>○</sup>タ<sup>○</sup>マ<sup>○</sup>ア<sup>○</sup>イ<sup>○</sup>ウ<sup>○</sup>エ<sup>○</sup>オ<sup>○</sup>五個止ル音ヲ<sup>○</sup>故<sup>○</sup>此<sup>○</sup>半濁音<sup>○</sup>他ノ正音ト同シク右ノ母音<sup>○</sup>其<sup>○</sup>個<sup>○</sup>々<sup>○</sup>父音<sup>○</sup>ヲ加<sup>○</sup>テ成ル<sup>○</sup>再<sup>○</sup>變者<sup>○</sup>ナリ而レモ未タ半濁音ノ父音<sup>○</sup>記號<sup>○</sup>ヲ配當セ<sup>○</sup>弗ル<sup>○</sup>ヲ以テ<sup>○</sup>余<sup>○</sup>之<sup>○</sup>ヲ充ル<sup>○</sup>ニ<sup>○</sup>半<sup>○</sup>符<sup>○</sup>ヲ以テ<sup>○</sup>ス可<sup>○</sup>也<sup>○</sup>則チ<sup>○</sup>一<sup>○</sup>ハ半濁音ノ父音ナル<sup>○</sup>ヲ<sup>○</sup>記號<sup>○</sup>ナル<sup>○</sup>ヲ以テ<sup>○</sup>此<sup>○</sup>記號<sup>○</sup>ニ

ア音ノ記號ヲ附セ<sup>○</sup>ハ<sup>○</sup>バ<sup>○</sup>ト<sup>○</sup>ナ<sup>○</sup>リ<sup>○</sup>ノ符<sup>○</sup>ヲ附セ<sup>○</sup>ハ<sup>○</sup>ヒ<sup>○</sup>ト<sup>○</sup>爲<sup>○</sup>リ<sup>○</sup>エ<sup>○</sup>ノ符<sup>○</sup>ヲ加<sup>○</sup>フ<sup>○</sup>レ<sup>○</sup>バ<sup>○</sup>ヘ<sup>○</sup>オ<sup>○</sup>ノ符<sup>○</sup>ヲ加<sup>○</sup>フ<sup>○</sup>レ<sup>○</sup>バ<sup>○</sup>ホ<sup>○</sup>ト<sup>○</sup>ナル<sup>○</sup>次<sup>○</sup>表<sup>○</sup>ヲ見<sup>○</sup>レ<sup>○</sup>バ<sup>○</sup>詳<sup>○</sup>細<sup>○</sup>ヲ知<sup>○</sup>ル<sup>○</sup>ヲ得<sup>○</sup>可<sup>○</sup>シ<sup>○</sup>此<sup>○</sup>ニ<sup>○</sup>次<sup>○</sup>テ<sup>○</sup>ハ<sup>○</sup>チ<sup>○</sup>ヤ<sup>○</sup>チ<sup>○</sup>ウ<sup>○</sup>チ<sup>○</sup>エ<sup>○</sup>チ<sup>○</sup>オ<sup>○</sup>ノ父音<sup>○</sup>チ<sup>○</sup>ニ<sup>○</sup>配<sup>○</sup>用<sup>○</sup>ス<sup>○</sup>可<sup>○</sup>キ<sup>○</sup>記<sup>○</sup>號<sup>○</sup>ヲ定<sup>○</sup>メ<sup>○</sup>テ<sup>○</sup>ト<sup>○</sup>爲<sup>○</sup>ス<sup>○</sup>可<sup>○</sup>シ<sup>○</sup>而<sup>○</sup>シ<sup>○</sup>テ<sup>○</sup>シ<sup>○</sup>ヤ<sup>○</sup>シ<sup>○</sup>ウ<sup>○</sup>シ<sup>○</sup>エ<sup>○</sup>シ<sup>○</sup>ヨ<sup>○</sup>ノ父音<sup>○</sup>シ<sup>○</sup>ニ<sup>○</sup>記<sup>○</sup>號<sup>○</sup>ヲ配<sup>○</sup>當<sup>○</sup>ス<sup>○</sup>可<sup>○</sup>シ<sup>○</sup>之<sup>○</sup>レ<sup>○</sup>ヲ以<sup>○</sup>テ<sup>○</sup>其<sup>○</sup>ノ音<sup>○</sup>符<sup>○</sup>ヲ作<sup>○</sup>ル<sup>○</sup>ノ法<sup>○</sup>ハ半濁音及ヒ其他子音ノ法ト同シ後表ニ詳ナリ

之ニ次デハ濁音ノ諸記號ヲ作ラサル可ラス濁音ハ清音ト甚タ相似タル者ニシテ清音ノ少シク重キ者トス例ヘハ濁音ガハ清音カト相對シタル者ニシテ發聲ノ摸樣等甚タ相似タリ濁音ダハ清音タニ對シ濁音ザハ清音サニ對シ又バハ半濁音バト對シタル者ナリ故ニ今是等ノ濁音ノ記號ヲ作ルハ唯タ其相對シタル清音或ハ半濁音ノ記號ニ用ヒタル輕線ヲ重線ト爲シテ足レリトス例之ヘハ清音カキクケコノ父音ク



變音記號表第二

キヤ	ギヤ	スヤ	ビヤ	ビヤ	ミヤ	リヤ
キユ	ギユ	スユ	ビユ	ビユ	ミユ	リュ
キヨ	ギヨ	スヨ	ビヨ	ビヨ	ミヨ	リヨ

右等記號製定法并ニ連續ノ法ハ悉ク前者ト同原則ニ基キタルモノナレハ復タ贅セス而シテキヤトキヤ等ノ如キ區別ハ又ダ前者ト同シク唯母音ノ輕重ニ依テナスモノニシテキヤハト書シキヤハト書スルカ如シ他ハ類推ス可シ

(茲ニ是等ノ記號ヲ製定シタルハ綴リ筆者ノ便ノミナラス實ニ此書ニ於テ欠ク可ラサルモノナリ何トナレハ我國ノ綴

法ニテハキヤト書スルトキヤト書スルニ於テ別法ナキヲ以テ或ハ其混スルヲナキヲ得ス而ルヲ茲ニ特別ノ記號ヲ製シテ其混雜ヲ避ケタルモノナレハナリ)

母音符變化ノ事

上章既ニ悉ク諸音ヲ記シタリト雖モ未タ母音符變化ノ事ヲ記サレバ今茲ニ述ントス

同一ノ母音二個相連ナル時ハ合シテ一個ノ長音ト爲ル假令ヘハアアト連ナル時ハア一ナル一個ノ長音ニ變ス可シ又カアト云フキハカノ字ハ既ニ説明シタル如ククトアノ連合シタル者ナルカ故ニ其實クアアト云フニ齊シカル可シ然ルキハカアト云フキハアノ二個連ナル者ナルカ故ニカ一ナル長キ一音トナル今此等ノ音ヲ筆記スルニハ同一ノ母音ヲ重テト書スルハ繁雜ヲ免レズ故ニ斯ノ如キ場合ニテハト書セスシテ其母音ヲ重線ニ爲ス可シ之レニ由テト書ス可キヲトナル記號ヲ重クシト書シ以テノ意ヲ通スルナリ故ニ母音ノ記號ヲ重線ニ記シタルキハ必ラス其母音ノ長ク引ク可キ者タルヲ示ス

ナリ

因ニ曰ク第一章ハ掲ケタル線ノ種類中此ノ記號ニ採用セサル者アリ夫等ハ皆ナ餘末ニシテ本書ニ無用ノ者ナリ然レヒ前ニ之ヲ掲シハ唯線ノ種類ヲ示セシニ止マルノミ

第四章 實用ニ就テノ指示

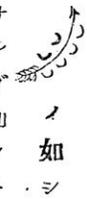
右ノ如ク各音ニ就テ其記號ヲ定メタレバ之ヲ用ユルコト平常ノ文字ヲ用ユルカ如ク容易ニシテ且ツ適美ナルヲ得ルニ至ルコトヲ勉メサル可ラス而シテ此ノ事ヲ遂ンニハ先ツ此記號ヲ請記スルニ至ルマデ幾度トナク温習スルヲ要ス然レヒ之ニ先ツテ能ク各記號ノ定度方向ト其大サヲ知ラサル可ラス而シテ此記號タルヤ五個ノ母音符及ヒ十八個ノ父音符ヨリ組成セルモノナルカ故ニ先ツ母音符及ヒ父音符ノ方向并ニ大サヲ知ラサル可ラズ

母音符ノ方向

ウ、ノ記號ハ一定ノ位置アルコトヲシ故ニ是等ノ文字ヲ區別スルニハ其位置ノ如何ニ關セズ唯タ其方向ノ如何ニ由テ區別スルノミ  
 nハ時辰ノ針ノ運回ト同一ノ方向ニ畫ク可シ而レヒ若シ次キノ記號ト適度ナル角ヲ爲サ、ルトキハ其角度ヲ適當ナラシメンガ爲メニ常ニ右方ニ轉回シテ適宜ノ位置ヲ占メシム可シ即チ之レヲ圖解セハ



ウノ如キモ右ト同シク位置變改ノ必要アルトキハ次ノ圖解ノ如ク右ノ記號ト反對シテ常ニ左方ニ回轉セシム可シ即チ



右等ノ別ハ斯ク個々ニ書スルキハ甚ダ分明ナラサルガ如シト雖ヒ他ノ記號ト相連續スルキハ大ニ明了ナルナリ而シテ充分ニ能ク位置變改ノ法ニ達スレバ實際此記號ヲ用ユルコト甚ダ易ク且ツ美ナル

ヲ得ルニ至ル可シ

エノ記號ハ如何ナル時ト雖ヒ決シテ其位置ヲ變スルコトナシ

ウノ記號ハ常ニ水平ノ位置ヲ保タサル可ラズ

オノ記號ハ時宜ニ由リテハ鉛垂ナラズシテノ、ノ如キ方向ト爲ル

モ敢テ妨ナシ

母音符ノ大サ

母音符ノ大サハ父音符ノ大サノ五分一ナルヲ要ス故ニ、 $\cup$ 等ノ如キ環ハ大概我カ曲尺零分五厘ノ直經ヲ有セサル可ラス、 $\cup$ 等ノ直橫線モ亦タ然リ今左ノ模範ニ從ツテ之ヲ演習ス可シ

$\cup$ 等ノ線ハ常ニ上ヨリ下ニ引キテ畫クト雖ヒ時ニ由リテ便利ノ爲下ヨリ上ニ向ツテ畫シコトアリ又タ妨ナキナリ

ア	$\cup$	$\cup$	$\cup$	$\cup$	$\cup$
イ	$\cap$	$\cap$	$\cap$	$\cap$	$\cap$
ウ	—	—	—	—	—
エ	$\subset$	$\subset$	$\subset$	$\subset$	$\subset$
オ	$\backslash$	$\backslash$	$\backslash$	$\backslash$	$\backslash$

父音符ノ方向

クノ記號ノ如キハ左方ニ水平ト四十五度ノ角ヲ爲ス如キ方向ニ在ルヲ要ス

スノ父音符(ノ如キハ其線ノ兩端ヲ水平線ノ上ニ置キタルカ如キ方向ヲ有セシム可シ

ツノ記號ノ如キモ亦タ決シテ傾斜セスシテ眞ノ水平直線ナルヲ要

ス  
 ヌノ記號（モ亦タ其兩端互ニ高低ナク水平ニ準スルヲ要ス  
 フノ記號）ハ其兩端ヲ直線ニテ結フキハ其直線水平ト直角ヲナスノ  
 方向ヲ要ス

ムノ記號（ハ其兩端ヲ連ネタルノ直線水平ト右方ニ四十五度ノ角度  
 ナ有スルヲ要ス

ユノ記號（ハ其一方ノ端末ヨリ他方ノ端末ニ直線ヲ引クキハ其直線  
 ガ水平ト右方ニ四十五度ノ角ヲナスヲ要ス

ルノ記號（ハ右方ニ水平ト四十五度ノ角ヲ爲ス可キ者タルヲ要ス

フウノ記號（ハ其一端ヨリ他端ニ直線ヲ引クキハ其直線カ水平ト左方  
 ニ四十五度ノ角ヲ爲ス可キ者タルヲ要ス

チユ音ノ父音符（ハ直線ヲ以テ其兩端ヲ結フキハ其直線カ水平ト左方

ニ四十五度ノ角ヲ爲ス者タラサル可ラス

シユノ記號（ハ若シ直線ヲ以テ其兩端ヲ結フキハ其直線カ水平ト直  
 角ヲナス可キ者タルヲ要ス

プノ記號（ハ水平ト直角ヲナス位置ヲ要ス即チ鉛垂線ナラサル可ラ  
 ス

ソノ音記號（ハ正音中ヌ音ノ父音符ナルヲ以テ其兩端水平線内ニアル  
 ヲ要ス

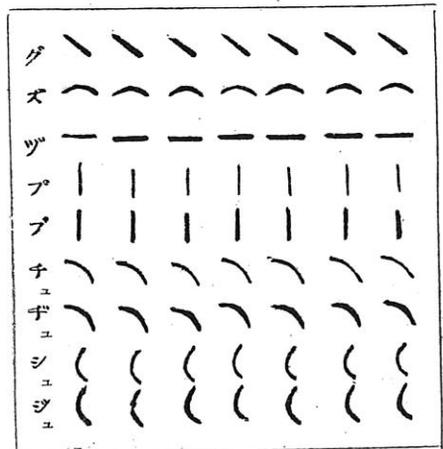
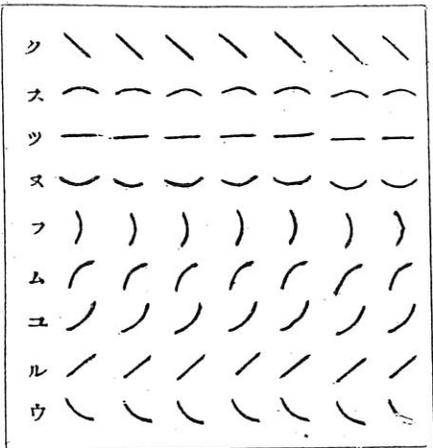
父音符ノ大サ

父音符ノ大サハ我カ曲尺ニテ二分五厘ノ長サヲ恰當トス

其他第二十丁音表中ノ諸父音符（）等ハ第十五葉表中クヌ  
 ムル并ニ第十九丁表中アブ等ノ諸父音ニ相對スルモノニシテ唯其始  
 端ニ鈞形ヲナスノミナレハ其位置大サ等ノ如キハ前諸音ノ父音符ト

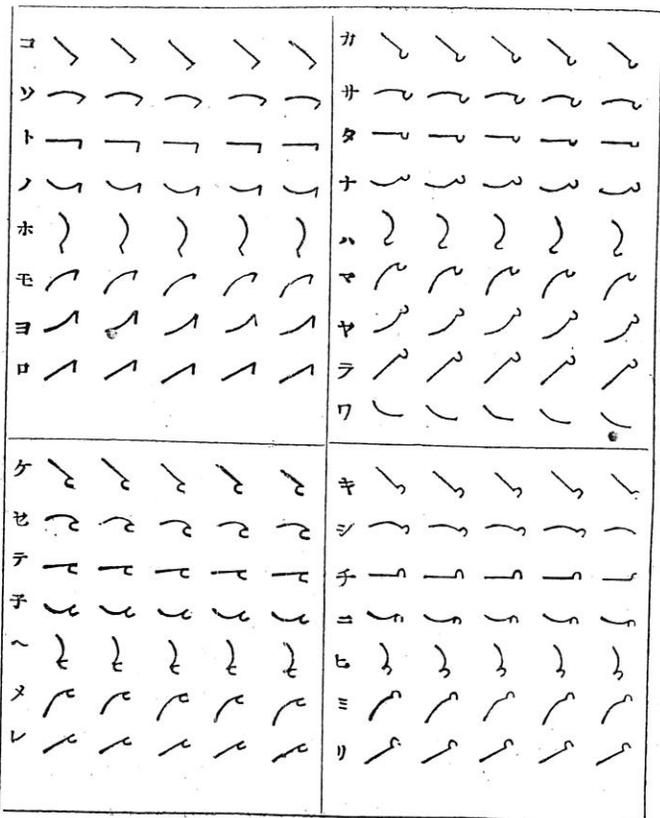
同シカル可シ

左ノ模範ニ從ヒ父音符ノ筆記ヲ練習ス可シ



右ノ記號中ノ等ノ線ハ一般ニ下ヨリ上ニ引クト雖モ上ヨリ下ニ引クモ亦タ妨ナシ

子音符練習ノ模範



右ハ唯タ練習ノ雛形ノミ他ハ類推ス可シ

### 第五章 記號連續ノ法

前章ニ記シタル模範ニ從ヒ温習スルキハ各音ノ記号ヲ諳記シ得ルコト甚タ容易ナリ既ニ之ヲ諳記シタルノ上ハ二個ノ記號ヲ接續シ以テ一個ノ言語ヲ綴ル可シ

總テ記號ハ皆簡單ナル法ヲ以テ接續スルヲ得ルナリ唯タ以上記號ノ方向ニ就テ述ベタル原則ト又タ某ノ母音符ハ如何様ニ其方向ヲ變スルモ差間ナキヤヲ能ク記憶スルヲ必用トスルノミ  
記號ヲ接續スルノ原則ハ各種ノ母音ニ適用スルニ夫レ々ノ小差異ナキニ非ラサルヲ以テ半環短橫線等ハ各別々ニ論明ス可シ

#### 半環ヲ接續スルコト

半環ハ前后何處ニテモ成ル可ク續キノ符ト角度ヲ爲サ、ル可ラズ故

ニU O 等ハ前ニ述ベタル如ク其方向ヲ變スルヲ得ルナリ然レモ半環ニシテ若シ字畫ノ末端ニ在ルキハ角度ヲ爲スヲ要セズ唯タ他ノ字畫ト鈎形ヲ爲セバ可ナリ例之ハカハ、キハ、ト書スルガ如シ

#### 短直橫線ヲ接續スルコト

短橫線ハ必ラズ常ニ前後ノ符ト角度ヲ爲スヲ要ス而シテ若シ其屬スル所ノ符ト著明ナル角度ヲ爲ス能ハサルキハ裁判シテ分離符ト爲スモ妨ケナシ

短直垂線ハ、ノ如ク少シク其方向ヲ變スルモ妨ナシ然レモ常ニ他ノ符號ト最モ銳角ヲ爲スノ位置ヲ擇ブ可シ而シテ此符モ如何ニ其方向ヲ變スルモ前後ノ符ト適宜ノ角度ヲ爲スト能ハサルキハ分離シテ記スルモ可ナリ

例セハ(ソフ)ハ)ノ如シ

父音符ヲ接続スルコト

父音符ニ用ヒタル曲線直線等ハ其中間ニ母音ヲ挟ムコトナクシテ互ニ  
接続スルトキハ幾何學ノ原則ニ基キ數學上ノ分量ノ角度ヲ爲スナリ  
或ハ角度ヲ爲サズシテ連續スルコトナキニ非ラズト雖モ是レ又タ一定  
ノ數理ノ法ニ由ツテ確定セサル可ラズ

角度ノ事

記號中ノ直線ヲ連續シテ爲スノ角度ハ三十度乃至百三十五度ノ間ニ  
アラサル可ラズ然レモ實際ニ於テハ之ヲ大別シテ銳角直角鈍角ノ三  
者ト爲スヲ以テ足レリトス

例之ヘバ



鈍角

曲線ト直線ト連續スルコト

直線ト曲線ノ互ニ連續スルキハ往々數學上ニ於テ要ス可キ精密ノ角  
度ヲ保ツコト能ハサルコトアリ  
曲線直線ニ連續シ其曲線ガ他ノ角度ヲ爲ス可キ直線ニ面シ且ツ其曲  
線ヲシテ直線ナラシメハ他直線ト鈍角ヲナスカ如キ場合ナルキハ其  
曲直二線ハ角度ヲ爲サズシテ連續スルナリ

例



右ノ如ク直線ニ連リタル曲線コシテ其位置若シ之ヲ直線ト爲サハ他  
直線ト直角ヲ爲スカ如キ者タルキハ運筆ノ便利ノ爲ニ角度如何ヲ顧  
ミサルコトアリ

例

し 〔 〕 等ノ如シ

又タ直線ニ面シテ連リタル曲線ニシテ若シ之ヲ直線ト爲スルハ其位  
置他ノ直線ト銳角ヲ爲スカ如キキタリハ一揮ノ筆勢ヲ以テ之ヲ連續  
スルコアリ

例

フ レ ク フ 等ノ如シ

曲線連續ノコ

フエーシング、カルパス  
對向曲線ニシテ若シ其弦互ニ直角ヲ爲スガ如キ位置ニ在ルキハ常ニ

相合シテ一ノ半環ヲ作スナリ

例

〔 〕 〔 〕 等ノ如シ

對向曲線ニシテ其弦互ニ銳角ヲ爲ス如キ方向ニアルキハ無角ニ連合  
スルナリ

例

〇 〇 〇 等ノ如キ是ナリ

然レモ若シ其弦互ニ鈍角ヲ爲ス如キ時ハ必ス其間ニ角ヲ作ルナリ

例

〔 〕 〔 〕 ノ如キ是ナリ

オ、ボ、シ、ン、ク、カルパス  
對背曲線ノ事

對背曲線ニシテ互ニ其方向ヲ同フスル者ハ連續シテ波線ヲ爲スナリ

例

〔 〕 〔 〕 等ノ如キ是ナリ

又タ對背曲線ニシテ其方向ヲ異ニスルキハ必ラズ角ヲ爲ス

例

〰〰〰 〰等ノ如キ是ナリ

曲線ヲ重複スルヲ

同線ヲ重複スルキハ互ニ角度ヲ爲ス

例

〰〰〰 〰等ノ如キ是ナリ

直線ヲ重複スルヲ

二個ノ直線同方向ニ在ル者ハ互ニ角ヲ爲サスノ一線ニ連續スルナリ而レモ若シ其一ハ重線コノ他ハ輕線ナルキハ其兩者ノ變移ヲ甚タ緩漫ナラシメ以テ宛モ一揮ノ筆勢ニ成リタル者ノ如クナラシムルヲ要ス

例

— — — — — 等ノ如キ是ナリ

母音符母音符ト連續スルヲ

此章ノ前項ニ説明シタル原則ハ多クハ母音符ト母音符ノ結合ニモ應當スルヲ得ルナリ然レモ母音符ノ環ヨリ成ル者ハ總テ半環ニシテ前ニ説明シタル者ハ四分環ナルヲ以テ其連續モ亦タ相異ナル者ナキヲ得ズ

短曲直線ハ同位置ノ父音符ト同様ニ置カル、モハ同様ノ角度ヲ爲スナリ然レモコレ等ハ母音符ナルヲ以テ二個連續シテ長ク無用ノ結合ヲ爲サズ何トナレハ前ニ記シタル如ク同一ノ母音符相連ナルキハ其符ヲ重線ニ變ス可キ原則アレハナリ

分離シタル母音符ノヲ

短縦線并ニ横線ハ分離シテ記スルヲ多ク半環ハ分離シテ記スルヲ少シ分離シタル母音符ハ其同シ綴リ中ニ在ル其屬ス可キ父音符ニ接シ

テ記シ且ツ其符ニ對シテ適度ノ角キ爲ス可シ  
 母音符若シ鉛垂線若シクハ斜線ナル記號ノ前ニ讀ム可キ者タルキハ  
 其線ノ左方ニ書シ其ノ記號ノ後ニ讀ム可キ者タルキハ右方ニ書スル  
 ナ要ス

母音符若シ地平線体ノ記號ノ前ニ讀ム可キ者タルキハ其上ニ書シ後  
 ニ讀ム可キ者タルキハ其下ニ書スルヲ要ス

此ノ他ノ分離シタル母音符ハ語ノ初ニ記スルモ中央ニ記スルモ亦タ  
 其ノ終末ニ記スルモ敢テ不可ナルヲナシ然レモ其母音符ヲ最後ニ記  
 スルキハ末端ニ置クヲ筆者ノ便利トス

若シ其語中ニ父音符三個以上連續シテ母音符ヲ分離スルヲ要スルキ  
 ハ其分離シタル母音符ハ固ヨリ適當ナル綴合ヲ亂サバカ如キ場所  
 ニ置カサル可ラズ實際ノ談話中ニテ相隔リタル音符記號ト接ス可ラズ

又、ク、ス、ツ、ヌ、フ、ム、ユ、ル、ノ各音ハ通常其用多ク且是等諸音ノミヲ以テ一  
 語ヲナスコト多キヲ以テ實用ニ於テ言語ノ末端ニアルカ或ハ末端ニア  
 ラザルモ混雜ヲ生セサル場合ニ於テハ母音ヲ除キ父音符ノミヲ連續  
 シテ彼等諸音ニ換ユルコト多シ例之ヘバファト云フキハ若シ母音符ヲ  
 除キテ書スルキハハトナリテ不都合ナルヲ以テ母音符ヲ附シ、  
 ト書スト雖モ(フル)(スル)(ムル)(ツル)(クル)等ノ如キハ父音符ノミヲ連續シ  
 テ、  
 語ノ末端ニアルカ或ハ而ラサルモ母音ヲ插マズ直ニ次キノ父音符  
 ト連續スルヲ得ルキハ又母音符ヲ除クナリ例ヘハスツルハ、ノ如シ  
 右ニ於テ先ツ各様ノ記號ヲ連續スルノ法ヲ盡シタルヲ以テ是ヨリ進  
 ヲテ次章ヲ説ク可シ

此法ヲ學ブ者若シ以上説明シタル諸原則ヲ充分ニ了解セバ次ニハ其ノ原則ノ實用ニ注意ス可シ而シテ實用ニ於テ好果ヲ奏センニハ先ツ確乎タル方法ヲ定メ之ニ由ツテ其熟達ヲ求メサル可ラス

讀方ノ習熟ハ大ニ實地運筆ノ精巧ヲ助クル者ナリ故ニ此法ヲ學ブ者ハ先ヅ卷未ニ附スル所ノ讀法練習ヲ幾度モ復讀シ之ヲ讀ムト宛モ通常ノ文字ヲ讀ムガ如ク容易ナルヲ得ルニ至ラサル可ラズ而テ若シ字形ノ解シ難キ者アラハ詳ニ是迄ノ原則ニ照ラシテ丁寧ニ反復ス可シ且ツ又自己ノ書シタル者ヲモ常ニ讀誦シテ若シ字形ノ讀過シ難キ者アラハ勉メテ之ヲ訂正ス可シ

蓋シ運筆ノ熟練ハ此術ノ諸原則ヲ諳シタル後ニ非レバ克ハズ故ニ先ツ各原則ニ就ヒテ一々演習ヲ爲ザル可ラス而此演習ヲ爲サンコハ二個ノ目的ヲ達セントテ勉メサル可ラス二個ノ目的トハ則チ第一ニ諸

記號ヲ接續スルノ法ニ熟練スルト第二ニ其記號ノ形ヲ善ク書スルヲ得ルニ至ルト是ナリ

此ノ演習ハ決シテ能ク一個ノ方法ヲ以テ盡シ得可キ者ニ非ラズ然レモ若シ左ニ論スル所ニ從ツテ罷勉セハ好結果ヲ奏スルト蓋シ難カラサル可シ

先ツ總記號ヲ三十秒乃至四五十秒時間ニ悉ク書シ盡スヲ得ルニ至ルヲ勉ム可シ(其實用ノ法ノ如キハ既ニ第四章ニ述ベタレバ就テ見ル可シ)而シテ各記號若シ聲音ニ應シテ猶豫ナク直ニ筆頭ニ上ルニ至レバ則チ是レ先ツ第一步ノ熟達ヲ得タル者ト云フ可シ斯ク既ニ第一步ニ達スレバ次ニハ極メテ神速ニ各記號ヲ接續ハルヲ得ルニ至ラントテ勉ム可シ

此目的ヲ達センニハ先ツ各母音符ヲ一々各子音符ノ前頭ニ連續スル

「チ練習ス可シ例之へハ  
 アカアクアスホスイク  
 等ノ如シ

此ノ如クシテ之レヲ充分目ニ慣レテ直ニ讀ム「チ得且ツ手ニ狂レテ

神速ニ書スルヲ得ルニ至ル迄幾度モ復習ス可シ  
 次ニハ又タ他ノ母音ニ諸子音ヲ接續シタル者ヲ習熟シ漸次ニ他ノ母

音ヨリ諸子音ニ及ホシ又時ニ應シテ或ハ之ヲ接合シ或ハ之ヲ分離シ  
 テ筆記ノ熟達ヲ圖ル可シ

右ノ法ニ熟セバ次ニハ子音ノ尾ニ母音ヲ附シテ右ト同一ノ手順ニ其  
 習熟ヲ勉ム可シ例之へハ

カイクカエカカ  
 等ノ如キ是ナリ  
 斯ノ如ク順次ニ他ノ子音ニ及ホシ又タ漸々其接續ノ長キ者ニ及ボス  
 可シ

次ニハ二個ノ子音ノ中間ニ一個ノ母音ヲ挿ム「ヲ習熟ス可シ

今茲ニ一個ノ短聲母音ヲ二個ノ子音ノ中間ニ挿ミタル例ヲ示セ

カイカ、カイク、サイシ  
 等ノ如キ是ナリ

右ハ習熟ノ大要ヲ叙述シタルモノナリ是ヨリ進ンテ第七章ヲ説ク可

第七章 同音ノ連用并ニ逼音ノ「

同音ヲ連用スルト云ヘルハ「カ」ノ音ノ次ニ直ニ「カ」ノ音ヲ連續シキノ音  
 ノ次ニ重テテキノ音ヲ用ユルカ如キ是ナリ斯ノ如ク同音ヲ連用スル  
 「ハ其母音ト子音トヲ論セス通常言語中ニ甚々屢々之アリ而シテ母  
 音ニアリテハ同音ヲ連用スルヒハ單ニ長音トナル「ハ既ニ前章ニ長  
 音短音ヲ示シタルヲ以テ別ニ論述スル「ヲ要セズ然レヒ子音音ハ之  
 ヲ連用スルモ決シテ長音トナル「ナシ而シテ斯ノ如キ連用ハ言語中

コテ多キヲ以テ之レヲ略スルノ規則ヲ造ルキハ爲ニ一層ノ便益ヲ生  
スル者アリト信ス故ニ茲ニ同音連用ヲ簡易ニスルノ法ヲ講ス可シ  
同音ヲ連用スルニ二様ノ種類アリ一個ノ音ヲ連用スル者及ヒ二個以  
上ノ音ヲ連用スル者はナリ一個ノ音ヲ連用スル者トハ例セバ「ササ」シ  
「ババ」ト云フカ如キ者ニシテ二個以上ノ音ヲ連用スルトハ「カク」  
「イロ」<sup>〱</sup>「カクゴ」<sup>〱</sup>「キテクレ」<sup>〱</sup>等ノ如シ

我日本ニ於テハ同音ヲ連用スルコトハ甚タ多キヲ以テ尋常假名ノ外ニ  
斯法アリテ人皆ナ之ヲ用ユ其法タルヤ一音ヲ連用スルキハ「」ノ如キ  
記號ヲ作り初メニ書シタル音ノ下ニ之ヲ記ス例セバ「ササ」ト書ス可キ  
ヲ下ノサニ代ユルニ「」ノ記號ヲ以テシ「サ」ト書シテ「ササ」ト同様ノ意  
味音聲ヲ表セリ又タ二個以上ノ音ヲ連用スルキハ「」ノ記號ヲ作り  
初メノ音ハ通常ノ文字ヲ以テ書シ次ノ音ハ此記號ヲ代用ス例セバ「イ

ロイロ」ト書ス可キヲ「イロ」<sup>〱</sup>ト書シテ同様ノ意義音聲ヲ表セリ是レ  
甚ダ便利ノ法ナリ而シテ其「」若シクハ「」ノ記號ハ一定ノ意義ヲ有  
スルコト無ク唯ダ此記號ノ上ニ記シタル字ト同様ノ働ヲ爲スナリ

一音若シクハ數音ヲ連用スルカ爲ニ斯ノ如ク別ニ規則ヲ定ムルハ其  
目的簡便ヲ欲スルニアルヲ以テ其記號モ最モ簡便ナル者ヲ撰ハサル  
可ラズ然シテ記號ノ最モ簡便ナル者ハ點或ハ直線ニ如クハナシ故ニ  
今此記號ニ平直線「」ヲ採用ス可シ

然レモ此記號ニハ一定ノ大サナク常ニ重複スヘキ文字ノ直下ニ平横  
ニ書キ且ツ其レト同様ノ長サヲ有セシム可シ故ニ文字ノ直下ニ記シ  
タルノ平直線ハ其文字ト同様ノ働ヲ有スト知ルヘシ例之ヘバ「サ」ト  
書ス可キキハ「」ナル記號ノ下ニ「」ノ線ヲ加ヘテ「」ト書シ「カクゴ」<sup>〱</sup>ハ

ト書ノ其連用ノ一音或ハ數音ノ記號ノ下ニ線ヲ附スルナリ斯ノ如クニシテ此(一)ノ線ハ我國ニテ用ユル、若シクハ(二)々ヲ兼ヌルモノニシテ自ラ一定ノ意味ナク唯々其上ニ記シタル字ト同意同聲ノ圖ト爲ルナリ

右ニ於テ同音連用ノ事ハ大畧論述シタリト雖比尙ホ少シク盡サ、ル所アルヲ以テ之ヨリ清音ニ次クニ濁音ヲ以テスル者ニ論及ス可シ

#### 清音ト濁音トノ連用ヲ論ス

同音ヲ連用スルニ方テ清音ニ次クニ其音ノ濁音ヲ以テスル者アリ例之ヘハ一音ノ者ニアリテハタ<sup>○</sup>バ<sup>○</sup>チ<sup>○</sup>等ノ如ク又タ二音連用ノ者ニアリテハ(ヒト)クレ)ノ如キ是ナリ此類ノ連用モ亦タ甚タ多キヲ以テ右ノ符ト共ニ之レヲモ定メサル可ラス而シテ是等ノ音ヲ連用スルニハ敢テ甚タ六ヶジキ規則ヲ立ツルヲ要セズ我國ニテ假名字ヲ用

ユルコ濁音ハ清音ニ重點(一)ヲ加フルヲ常トス而リ此筆記法ニテ子音ノ濁音ハ其清音ヲ表スルノ記號ヲ重クスルニ止マル故ニ此ノ清音ニ濁音ヲ重スルノ法ニ於テモ右ノ如ク唯々其線ヲ重クシ(一)ヲ(一)ニスレバ其區別自ラ判然タル可シ故ニタ<sup>○</sup>ハ<sup>○</sup>ト云フキハ(一)ト書ス可クタ<sup>○</sup>バ<sup>○</sup>ト云フキハ(一)ト書ス可ク(コト)ト云フキハ(一)ト書ス可ク(コト)ト云フキハ(一)ト書ス可シ

#### 逼音ノ一

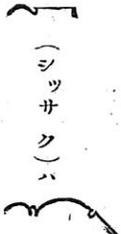
逼音トハ(リッケン)×(コッケン)×(セツトウ)×(シツサク)或ハ(ホッキ)等ノ如ク語中ニ於テ其音ノ迫リタルモノヲ云フナリ此等ノ如キ語音ハ通常辨語ニ於テ其用甚タ多キヲ以テ此筆記法ノ實用上ニアリテ如何ニ處置ス可キヤヲ定メサル可ラス而シテ之ヲナスニハ先ツ各音ノ性質ヲ知ラサル可ラス

古來ノ慣習ニ雜沓ハ(ザットウ)國權ハ(コツケン)ト書シタリ今此ノ記法  
 ナ語音上ヨリ論スルキハ雜沓ナ(ザットウ)ト書スルハ正キモノ、如シ  
 ト雖モ國權ナ(コツケン)ト書スルハ其當ヲ得サルモノ、如シ何トナレ  
 ハ若シ此語ヲ<sup>ツメ</sup>逼スシテ緩ク發スルキハ(コクケン)トナルカ故ニ假令ヒ  
 其音ノ逼マル<sup>ツメ</sup>アルモ其性質ニ於テハ毫モ變スル<sup>ツメ</sup>ナクシテ如何ニ  
 逼リタルモ(コクケン)變シテ(コツケン)トナルノ理ナシ唯タ(コクケン)ノ  
 音縮マリタルノミニテツニ變シタルニ非ラサルナリ由是テ右等  
 二語ヲ分析シテ書スルキハ(コクケン)ハ(ク)オクツクエン)ニシテ(ザットウ)  
 ハ(ズ)アツツオト)ナル可シ而シテ此等諸音ノツマルキハ(ク)オクツクエン)  
 ノク<sup>ツ</sup>音逼リテ殆ントカ行ノ文音トナリ(ズ)アツツオト)ノツ<sup>ツ</sup>音逼リテ  
 行ノ父音トナルナリ而シテ是等逼音ニ次クノ音ハ必ス其逼音ト同  
 音ナルカ否ラサルモ必ズ其逼音同行ノ音ナルヲ知ルナリ故ニ此等ノ

如キ諸音ハ左ノ法則ニ從ツテ處置セラルヘキモノナリ

(法則)逼音ヲ含ミタル語ヲ書スルニハ其逼音符ト之レニ次クノ音符ノ  
 兩者ニ代フルニ其逼音ニ次クノ音符ニシテ其ノ父音符ヲ通常ノ  
 二倍ノ長サニナシタル者ヲ以テス可シ

例

(リッケン)ハ (ザットウ)ハ  
  
 (シツサク)ハ  
  
 ト書スルカ如シ

右ニ於テ同音連用ノ法并ニ逼音ノ<sup>ツメ</sup>ハ零ホ全タキヲ得タリト信ス是  
 ヨリ以上記述シタル諸件ヲ實用シ易カラシメンカ爲ニ練習ノ模範ヲ  
 示ス可シ故ニ苟クモ此法ニ熟達セント欲スル者ハ宜シク練習ノ部ニ  
 記スル所ニ就ヒテ能ク其熟達セント<sup>ツメ</sup>勉ム可シ

書法練習

此ノ書法練習ハ苟クモ此法ニ達セント欲スルノ士ガ罷勉セサル可ラ  
 サルモノトス而リ今此練習ニ進ムニ先ツテ讀者ノ注意ヲ請フ可キモ  
 ノアリ元來此筆記法ハ音聲ニ本キテ定メタル者ナレバ我國文字綴合  
 法ニ由テ筆記ヲナスモノニ非ラスシテ辨論ノ際耳ニ聞クマ、ヲ記ス  
 ル者ナリ故ニ我國古來ノ綴法ニテハ今日ヲケフト書キシト雖此書  
 ニテハ今日ハキヨノ長ク引キタル者ナルヲ以テキヨト書シ高ハコノ長  
 キ者ニテキヨト書ス可シ而シテ筆記ヲ學フノ法ハ左ニ書セル原音ヲ  
 幾度トナク記號ヲ以テ書キ取り以復丁寧ニ自ラ之ヲ校閲シ其語ヲ正  
 シ終ニ神速明瞭ニシテ且ツ毫モ失誤ナキヲ得ルニ至ランヲ勉ムベ  
 シ

筆記練習第一

總テノ母音ヲ順次ニ殘ラス各子韻音ニ加フ可シ

- 1 カイ、カウ、カエ、カオ、キア、キウ、キエ、キオ、クア、クイ、クエ、クオ、ケイ、ケウ、ケエ、ケオ
- 2 サイ、サウ、サエ、サオ、シア、シウ、シエ、シオ、スクア、スクイ、スクエ、スクオ、クセイ、クセウ、クセエ、クセオ
- 3 シウ、シエ、シオ、スクア、スクイ、スクエ、スクオ、クセイ、クセウ、クセエ、クセオ
- 4 タウ、タエ、タオ、チア、チウ、チエ、チオ、ツア、ツイ、ツエ、ツオ、テ
- 5 イ、テウ、テエ、テオ、トア、トイ、トウ、トエ、トオ、ナア、ナイ、ナウ、ナエ、ナオ、ニア
- 6 ニイ、ニウ、ニエ、ニオ、ヌア、ヌイ、ヌウ、ヌエ、ヌオ、チア、チイ、チウ、チエ、チオ、チニア
- 7 ア、ノイ、ノウ、ノエ、ノオ、ハア、ハイ、ハウ、ハエ、ハオ、ヒア、ヒイ、ヒウ、ヒエ、ヒオ、ヒニア
- 8 フア、フイ、フウ、フエ、フオ、ヘア、ヘイ、ヘウ、ヘエ、ヘオ、ホア、ホイ、ホウ、ホエ、ホオ、ホニア

右ノ如ク順次ニ子音符ヲ悉ク母音符ニ結合ス可シ

筆記練習第二

右ニ反シテ各母音ニ子音ヲ順次ニ連續セシム可シ

- アカ、アキ、アク、アケ、アコ、イカ、イキ、イク、イケ、イコ、ウカ、ウキ、ウク、ウケ、ウ

コ、エカ、エキ、エク、エケ、エコ、オカ、オキ、オク、オケ、オコ、アサ、アシ、アス、アセ、アソ、イサ、イシ、イス、イセ、イソ、ウサ、ウシ、ウス、ウセ、ウソ、エサ、エシ、エス、エセ、エソ、オサ、オシ、オス、オセ、オソ、アタ、アチ、アツ、アテ、アト、

右ノ順序ヲ以テ各音ヲ悉ク連合シ盡ス可シ

筆記練習第三

各母音ヲ母音ト結合ス可シ

アア、アイ、アウ、アエ、アオ、イア、イイ、イウ、イエ、イオ、ウア、ウイ、ウウ、ウエ、ウオ、エア、エイ、エウ、エエ、エオ、オア、オイ、オウ、オエ、オオ、

筆記練習第四

子音ト子音トヲ總テ互ニ結合ス可シ

カカ、カキ、カク、カケ、カコ、カサ、カシ、カス、カセ、カソ、カタ、カチ、カツ、カテ、カナ、カニ、カヌ、カチ、カハ、カヒ、カフ、カヘ、カホ、カマ、カミ、カム、カメ、カモ、カヤ、

カユ、カヨ、カラ、カリ、カル、カレ、カロ、キカ、キキ、キシ、キケ、キコ、キサ、キシ、キセ、キソ、

右ノ順序ヲ以テ各子音ヲ連續シ盡ス可シ

筆記練習第五

二個ノ母音ノ中間ニ一個ノ子音ヲ挿ム可シ

アガ<sup>1</sup>ア、アキ<sup>2</sup>ア、アク<sup>3</sup>ア、アケ<sup>4</sup>ア、アコ<sup>5</sup>ア、アカ<sup>6</sup>イ、アキ<sup>7</sup>イ、アク<sup>8</sup>イ、アケ<sup>9</sup>イ、アコ<sup>10</sup>イ、イカ<sup>11</sup>ウ、イキ<sup>12</sup>ウ、イク<sup>13</sup>ウ、イケ<sup>14</sup>ウ、イコ<sup>15</sup>ウ、ウカ<sup>16</sup>エ、ウキ<sup>17</sup>エ、ウク<sup>18</sup>エ、ウケ<sup>19</sup>エ、ウコ<sup>20</sup>エ、エカ<sup>21</sup>オ、エキ<sup>22</sup>オ、エク<sup>23</sup>オ、エケ<sup>24</sup>オ、エコ<sup>25</sup>オ

斯ノ如ク順序ニ各音ヲ接續ス可シ

筆記練習第六

二個ノ子音ノ中間ニ一個ノ母音ヲ挿ム可シ

サアカ、タイサ、ナウタ、ハエナ、マオハ、カアカ、ヤマア、チイヤ、ワウラ、トエリ

カアタ、サイサ、タウハ、ナエマ、ハオヤ、マアラ、ヤエワ、ラウト、ワエサ、  
 右ノ如ク各音ヲ悉ク結合シテ書シ盡ス可シ而シテ以上ニ掲クル所チ  
 悉ク能ク神速明瞭ニ筆スルヲ得ルニ至レハ次コハ一個ノ母音ノ下ニ  
 二個ノ子音ヲ連續シタル者ヲ習練シ之ニ熟セハ次ニ一個ノ子音ノ下  
 ニ二個ノ母音ヲ連續シタル者ニ及ホシ又次ニハ二個ノ母音ノ下ニ一  
 個ノ子音ヲ連續シタル者次コハ二個ノ子音ノ下ニ一個ノ母音ヲ連テ  
 タル者ヲ習熟ス可シ今是等各個ニ就ヒテ一個宛ノ例ヲ掲ケ以テ讀者  
 ノ便ニ供ス

- (甲) 一個ノ母音ノ下ニ二個ノ子音ヲ聯テタル者(母)子(子)エカキト云フカ如シ
- (乙) 一個ノ子音ノ下ニ二個ノ母音ヲ聯テタル者(母)母(子)コイエト云フカ如シ
- (丙) 二個ノ母音ノ下ニ一個ノ子音ヲ聯テタル者(子)子(母)アイラト云フカ如シ
- (丁) 二個ノ子音ノ下ニ一個ノ母音ヲ聯テタル者(母)子(子)タカイト云フカ如シ

筆記練習第七

第二十丁ニ掲タル表並ニ第七章ニ依リテ左ノ語音ヲ筆記ス可シ

キヤク、ギヤク、ギヤ、キヤ、ギエリ、キエバ、キエト、ギョクロー、キョクロー、ギョクザ、スヤ  
 グヤ、スヨセ、コンヌヤク、イツピヤク、ビヤクダン、ビョドー、ビョブ、ミヤク、キミヨ、カ  
 ノリヤク、リヨガイ、ヌエドー、イツキヨセッキ、カツパ、ソツチエ、シヨツチエ、ホット、  
 シュツケ、ハツケ、コツケ、アツケ、プツシヤ、エツケン、セツサ、ヒツパク、セツパ  
 ク、クツキヨク、ゴツタイ、チヨツト、ヒヨツト、ハット、モッキヨ、イツキヤク、ドツ  
 ケン、シュサン、ニツチ、サツチ、コツチ、ソツチ、ヒツクリ、ユツクリ、シツカ  
 リ、ヨツタ、オツタ、等ノ如シ種々ニ練習ス可シ

(附言)右ニ記シタル習練ノ模範ハ總テ筆記法上ニ要スルノ聯語ヲ殆  
 ント洩ラスコトナク含蓄スル者ナリ故ニ此ノ模範ヲ充分ニ能ク書得  
 スルニ至ル迄幾度トナク復習セサル可ラズコレ筆記法ニ達スルノ

眞法ナレバナリ而シテ斯書ノ此部分ノ勉強ヲ怠タレバ筆記法ニ熟達スルニ於テ大ニ困難ヲ増スニ至ル可シ然ルヲ此練習ノ模範ニ由ラズシテ初ヨリ恣マヽニ練習ヲナサントスルキハ數ヶ月ノ勞ヲ徒費シテ猶ホ熟達スルコト能ハサル可シ之ニ反シテ此練習ノ模範ニ從ツテ學フ者ハ漸次ニ高妙ノ域ニ進ムノ途次ニ於テ決シテ著シキ困難ニ遭遇スルコト無キナリ

## 第八章 短句ノ筆記

此筆記法ニ於テ互ニ異リタル數語ヲ一筆ニ連書シ以テ連續シタル一句ト爲スハ時トメハ止ヲ得サルノ事タリ而メ場合ニ由リ數語ヲ一筆ニ連書センニハ筆記者及ヒ讀者ノ便利如何ヲ顧ミテ後ニ決ス可シ第一ニ筆記者ノ便利ハ之ヲ連續スルカ爲ニ其語ノ連續スルノ點ヲ適當ナル角度ト爲スヲ得ルカ若シクハ又タ角度ヲ爲サ、ルヲ得ルカニ

在リ例之ヘハ若シ初ノ語音符ノ終末ト次ノ語音符ノ初メト結合シ難キ時ハ其語ヲ分離シテ記セサルヲ得サルカ如シ

其記號ヲ餘リ長ク連續スルキハ筆記者ノ便ナラス句ヲ連續スルコト長キハ筆者ヲシ神速ナラシムルヨリハ寧ロ遲緩ナラシムルノ弊アル者トス

ソレ然ルカ故ニ筆記者ノ便利ハ第一ニ語詞ヲシテ適當ノ綴合ヲ保タシメ且ツ神速ヲ助クルノ形ヲ有セシムル事第二ニ其句ヲ簡單ニシテ讀者ヲ迷ハシメサルトニ在ルナリ

第二ニ其筆記ヲ讀ム人ノ便利

右ニ記シタル筆記者ノ便利ニ就ヒテノ原則ヲ理會セハ兼テ其筆記ヲ讀ム人ノ注意トモ成ルコトアル可シ然レモ其ノ筆記ヲ讀ム人ノ爲メコト猶ホ此他ニ要用ナルコトアリ何ソヤ蓋シ通常談話ノ際ニ於テ聲ヲ切

リ止メル點ニ至レバ其筆記ノ字句モ亦之レニ從ツテ切り止メルヲ要ス然ルキハ大ニ讀者ヲシテ了解シ易ラシム且又句讀ノ點ヲ正確ニスルモ固ヨリ要用ナリト雖モ唯タ此點ヲ正シク且ツ明カニスルノミヲ以テ足レリトセス猶ホ如何ナル所カ果シテ切り止ム可キ點ナルカラ精考シ如何ナル語ト如何ナル語ハ果シテ其意義ニ於テ相連續セル者アルヤヲ注意セサル可ラサルナリ而シテ今茲ニ言語ノ關係ノ親密ナルニ種々ノ度アルコト一ニ示サバ

第一ニハ副詞体ノ句ハ其語ハ假令へ二個若シクハ二個以上アルモ其意味ニ於テ一語ト爲サ、ルヲ得サル者多シ左ニ記ス者ノ如キ則チ是ナリ

實際ニ在リテハ 理論ヨリ言ハバ 約マル所 疑モ無シ 偶然デ  
以テ 等ノ如シ

第二ニハ「テ」ヨ「ハ」ノ詞若シクハ前置詞ト其ノ「テ」ヨ「ハ」ノ詞若シクハ前置詞ヲ有スルノ語トハ其意味甚タ親密ニシテ實際別ツテ要セサルモノアリ

## 例

夫ニ就テ 其所ヨリ 一人ノ爲ニ 予ト共ニ 君父ニ向ツテ 等  
ノ如キ是ナリ

斯ノ如ク勘考ヲ下セバ猶ホ右ノ外ニ其意味ヨリ結合シテ一語句ト爲スヲ得ヘキ者蓋シ勘ナシトセス然レモ一々之ヲ指示セズ若シタゞ諸語詞ニシテ意味全ク相ヒ結合シ又々實際ノ辨論ニ於テモ互ニ相ヒ結合スル者ニシテ之ヲ筆記スルニモ結合シテ一句ト爲スノ甚ダ簡易ナルモノハ筆記者之ヲ結合シテ可ナラン之ニ反シテ若シ其ノ意味ニ於テハ全ク相ヒ結合セルモ其語ヲ一句ニ結合シテ筆記スルキハ反ツテ

句ノ長キニ失スル等ノ恐アル者ハ之ヲ分離シテ筆記セサル可ラス今  
 此書ヲ學フ者ハ此卷末ニ附スル所ノ讀方課程ヲ能ク讀習シ且以下ニ  
 掲載セル所ノ筆記練習ニ力ヲ盡ス可シ而シテ其ノ自ラ能ク適當ノ句  
 ヲ作り得ルニ至ル迄ハ其記號ノ簡單ヲ旨トシテ先ツ長句及ヒ不便ナ  
 ル結合等ヲ避ケサル可ラズ

筆記練習第八

(一) 就テハ 由ツテハ 於テハ 迄テニハ 斯ノ事デ 是ニ就ヒテ  
 夫レ故ニ 彼レ故ニ 知フト 是ト共ニ 夫ト共ニ 之レカ爲ニ  
 夫レ等ニハ コレカラ 夫レ等カラ 予ニ於テハ タレデモ  
 イツモ

(二) シテイル アルダラウ デキヨウ デキマス シテモヨイ デ  
 キルカ キキマシヨ セチバナラヌ シツテイル スルガヨイ コー

スレバ ツノトキニハ ツウスレバ ツノヒニハ イマデハ ア  
 ルカモシレナイ

(三) ナタレバナラヌ モシアルナラハ セケンデハ ツノコトニハ  
 シナクテヨイ ツノワケツレデモヨカロウ

(四) もし人金環きんのかんわを箴うらめ美うつくしき衣服を着て爾曹なんぢらの會堂かいどうより來り又貧ひんき人汚よごたる衣服を着て來きんぎんななんなぢ等美うつくしき衣服を着たる人を顧かへりみて爾なんぢちこの榮位えいゐに座まきと曰いひまま貧ひん者しやななんなぢ彼所かゝり立たてと云いひ或あるひは我われり足下あしもと座まれと曰いへば爾曹なんぢらハ各人ひとりひとりの中なかにうち區別けつべつを立たてまた惡念あくねんを以もつて人ひとを分わつものもの非あらずや我われり愛あいする兄弟けいだいよ能よくく聽きけ神かみハ此世このよの貧ひん者しやを撰えらひて信仰しんぎやうに富とせ己おのれを愛あいする者ものに約束やくそくし玉たまひし所の國くにを嗣ついでぐ可よき者ものととららしめ給たまふに非あらずや

筆記練習 第九

コレヨリハ通常辨論談話ノ間ニ最トモ能ク用ユル者ニ就ヒテ其最トモ短キ語詞ヲ掲ゲ漸々長キ者ニ及ボシ以テ此篇ノ局ヲ結フニ至ル可

ナ	ラ	ビ	ニ	タ	バ	チ	ニ	ノ	ミ	ナ	ラ	ズ	ソ	ノ	ウ	エ	ニ	ナ	カ	ン	ツ	ク	ソ
モ	カ	ン	ラ	イ	イ	ッ	タ	イ	モ	ト	ヨ	リ	イ	マ	サ	ラ	ニ	モ	カ	ハ	ハ	ラ	シ
ズ	ヲ	モ	カ	ユ	リ	ミ	ズ	ソ	レ	ト	チ	ガ	ッ	テ	マ	シ	テ	ヤ	カ	ツ	マ	タ	モ
イ	マ	ダ	ガ	シ	カ	シ	ソ	レ	ト	モ	ト	ハ	イ	ヘ	ヨ	シ	ム	バ	ム	ヤ	ミ	ニ	シ
ホ	ト	ン	ド	マ	ッ	タ	ク	ト	モ	カ	ク	ト	ミ	エ	ル	ト	オ	モ	ハ	ル	ケ	レ	ド
モ	ナ	ニ	シ	ロ	カ	モ	シ	レ	ヌ	デ	モ	イ	ケ	ナ	イ	イ	ザ	シ	ラ	ズ	デ	ハ	ナ
イ	カ	イ	マ	ニ	モ	ア	レ	ト	モ	キ	ガ	ツ	カ	ズ	ハ	タ	マ	タ	ナ	ニ	ユ	エ	ニ
ハ	カ	ラ	ズ	モ	カ	ク	イ	ハ	バ	ソ	ー	ス	レ	バ	ナ	ニ	カ	マ	タ	ヒ	ク	ツ	ニ
モ	ハ	カ	ラ	ズ	モ	カ	ク	イ	ハ	バ	ソ	ー	ス	レ	バ	ナ	ニ	カ	マ	タ	ヒ	ク	ツ

等ノ如シ

右ノ類猶ホ他ニ甚タ多シト雖モ一々之ヲ記セス次ニヤ、長キ語ノ模範ヲ示サン

筆記練習 第十

此所ハ即チ一個若シクハ數個ノ實名詞及ヒ一個若シクハ數個ノ動詞ヨリ成立タル短句ヲ掲ク

- (一) 私ハスコシモ關係シナイ
- (二) 其意ヲ解スルコトガ出來ナイ
- (三) 便利ヲ主意トセテ事ノ利害ヲ顧ミテ予ハ將ニ言ハントス之レヲ必要物トハ云ヘヌ
- (四) 意味カ甚タ曖昧ダ
- (五) 其義務ヲ負フテ居ナカラ
- (六) 掌ヲ翻スヨリ易シ

- (七) 議論ニツニ別レテ
- (八) 人民ノ負擔ヲ輕クシテ
- (九) 是レ迄テ曾テ斯ノ様ナ景狀ハナイ
- 右ノ如キ短句ヲ練習セハ次ニハ又タ少シク長キ者ニ入ル可シ筆記練習第十一ニ於テ其ノ模範ヲ示ス可シ

## 筆記練習 第十一

- (一) 一人ニシテ負債ヲ起ス權理カ無クハ則チ人文ノ自由ガナキ者デア  
ル
- (二) 體軀ハ死ストモ精神ハ滅ヒマセヌゾ
- (三) 子ニ自由ヲ與ヘヨ否ラサレバ死ヲ與ヘヨ
- (四) 歐洲ノ地圖ニ佛蘭西ノ見エヌ様ニ成ルハ最早遠クモアルマイ
- (五) 眞ノ安樂ヲ求メヨ姑息ノ安樂ヲ偷ムナカレ

(六) 誰カ我黨ヲ無謀ナリト云フヤ彼レ反ツテ無謀ノ舉動ヲナスニ非  
ラズヤ

- (七) 天地ノ公道ヲ踏テ斃ル是レ程天下ニ愉快ナル者ハアルマイ
- (八) 彼ノ水ヲミヨ堤防一タヒ壞ルレハ四面ニ溢レ家ヲ漂ハシ人ヲ溺  
ラスデハナイカ
- (九) 總テ幸福ノ生スルニモ災害ノ生スルニモ必テス源<sup>モト</sup>カアル故ニ幸  
福ノ源ヲ納レテ災害ノ門ヲ絶テハ災害ハ何ニシテ起ル<sup>ト</sup>ガ出來  
ヨウツ
- (十) 人ニ聞カレマイト思ヘバ言ハナイガヨシ又タ人ニ知ラレマイト  
思ヘバ爲ナイガヨイ
- (十一) 國家ノ害ヲ救フニハ其害ノ起ツタ原因ヲ推シテ其害ノ現ハレ  
テ居ル所ヲ治メテバナラス

右ノ如キ句モ亦ク甚タ多シト雖モ敢テ悉ク茲ニ載スルヲ要セスト信  
ス故ニ是ヨリ較ヤ長キ一段ヲ筆記スルノ模範ヲ示ス可シ

## 筆記練習第十二

(一) 黨派ニ加ハツテ居ル人ハ乃ヲ以テ殺スコトガデキルケレト其黨  
派ガ奉スル所ノ主義ハ決シテ乃テハ滅セヌ試ニ見タマエ魯西亞  
ノ帝ガ虛無黨ニ加ハツテ居ル人ヲ乃ヲ以テ殺シタルコトハ幾万人  
アルカ知レナイガケレト其黨派ガ奉テ居ル虛無主義ハ未タ一度  
モ魯室ノ乃ノ爲メニ殺サレタコトハアリマセヌ

(二) 其ノ爲サント思ツテ居ル所ハ彙卵ヨリモ危ク又タ天へ上ルヨリ  
モ六ケシイ而シテ其ノ仕ヨウト思フテ居ルコトヲ變スルハ掌ヲ反  
スヨリ仕易クテ泰山ヨリモ安全ダロフ然ルニ何故タカ掌ヲ反ス  
ヨリ仕易キ事ヲシテ泰山ニ勝ルノ安全ヲ得ルヲ嫌ツテ反ツテ天

ニ上ルヨリモ六ケシキコトヲシテ彙卵ノ危ヲ求メントスルカ

(三) 國ノ改進黨ヲ圖ル者ハ先ツ其目的ヲ急進ニ取ラサル可ラス初メ急  
進ヲ目的トスル者デモ其ノ爲ス所ハ反ツテ漸ニ過クルニ至ル況  
シテ初ヨリ漸次ニ進マントスル者ナドハ實際一步モ進ムコト能ハ  
ズシテ唯タ舊物ヲ保守スルノ結果ヲ生ズ何トナレハ世間ノ萬事  
ハ意外ニ成リ難キ者ニシテ目的ノ半分モ仕遂ルコトガ六ケ敷故ナ  
リ世ノ中ニハ或ハ急進ノ者モアロシ漸進ヲ目的トスル者モア  
ロシ又タ保守ヲ主義トスル者モアロシ是等ノ者ハ既ニ其目的  
カ違フカラ互ニ其方法モ相異ナルナラン又タ其結果ニ大小アル  
ガ故ニ其當低ノ成リ行キハ前以テ知ルコト出來ナイトハ言フ者ノ  
又タ知レナイデモナイ何トナレハ物ノ進ムコトハ一定ノ規則ガア  
ルカラ試ミニ見タマヘ昔ヨリ初ノノ目的ヨリ遙カニ少ナキコトヲ

成シタ者ハ大變多ヒガ目的通りニ仕遂タ者ハ誠ニ少ナイダカラ  
 急進ト云ヘハ何タカ過激ナヨウダガ其目的ヲ急進ニシテ居レハ  
 丁度善イ加減ニ進ムヲカ出來ル初ヨリ善イ加減ニ進ム積リテ居  
 テハ迎モ善イ加減ニ進ムヲハ出來ナイ物事ハ總テ晚レテ仕方ノ  
 ナイモノダ

筆記ノ模範ハ右ニ於テ既ニ充分ナル可ケレバ苟クモ此法ニ志ス者ハ  
 右ノ模範ニ從フテ能ク々練習ス可シ

### ○第九章 結局ノ教訓

上文既ニ此術ニ入ル總テノ主意ヲ説明シタルヲ以テ是レヨリ實用ニ  
 就テ少シク辨ヲ費サントス  
 苟クモ前章ニ説明シタル諸規則ニ熟練シタル者ハ國語中殆ント總テ  
 ノ文字ヲ悉ク正當ニ書得スルニ至リシナラン然レモ亦反ツテ其理論

上ノ規則ヲ學ヒタルガ爲ニ未タ實際ニ熟セサル者モアルヘシ是レヲ  
 以テ決シテ其志ヲ挫ク可ラス故ニ今此ノ神速ナル筆記ヲ實行スルノ  
 目的ヲ助ケンガ爲ニ一二ノ法ヲ説カントス

(第一)運筆若シ意ノ如ク神速ナルヲ能ハサルモノハ先ツ洋筆或ハ鉛筆  
 ヲ以テ大環小環長直線短直線ヲ各様ニ畫クヲ練習シ終ニ卷末ニ附  
 スル所ノ讀方練習ニ就テ習字ヲナスヲ以テ必用トス  
 蓋シ筆ヲ運用シテ已レノ意ノ欲スル所ニ從ハシムルハ神速ノ筆記ニ  
 於テ最モ要用トスル所ナリ故ニ其初ハ先ツ能ク注意シテ筆鋒ヲ自由  
 ニスルヲ勉メサル可ラス之ヲ爲シハ讀方練習ノ部ニツキ數多ノ  
 習字練習ヲ做サハルヘカラス

(第二)既ニ斯ク習字ニ於テ運筆自在ナルヲ得ルニ至レハ則チ進ンテ筆  
 記實用ニ習熟スルニモ亦タ一定ノ順序アリ既ニ前ニモ示シタル如ク

第一ニハ本篇ノ第三章ニ掲ケタル仮名ノ記号ヲ請記スヘシ

第二ニハ母音ト子音ノ結合ヲ學習ス可シ

第三ニハ子音ト子音トヲ最モ適正ナル角度ニ結合センコトヲ學バザルヘカラス

(注意)此事ハ大ニ實用ヲ助クルカ故ニ自ラ必用ナリト思惟スル所ノ者ヲ撰ヒテ幾度トナシ演習ス可シ

第四子音ニシテ之ヲ結合スルモ角度ヲ爲サマル者ヲ擇ヒテ結合ス可シ而シテ其結合シタル兩字ハ宛モ一字ノ如ク見エルノ精巧ニ至ルマテ復習セサル可ラス

(注意)此所ニ於テハ此部ニ属スル語ヲ擇ヒ百語ヲ二分時間ニ記シ盡スノ比例ニテ書スルコトヲ得ルニ至ルヲ勉ム可シ

第五若シ文字ノ形ニ善ナリ難キ者アラバ其字ノ形ヲヨク書スルヲ得

ルニ至ルマテ復習ス可シ

第六既ニ文字及ヒ短句等ヲ習熟セシ後ハ他人ノ談話辨論等ヲ書取ルコトヲ勉ムヘシ先ツ他人ニ請フテ緩ク談話ヲ爲サシメテ之ヲ筆記ス可シ而シテ其談話ノ速度ハ宛モ筆記者ガ力ノ及フ限り筆記スルコトハ敢テ記憶力ヲ勞スルコトナクシテ記シ盡スヲ得ルノ度ナルヲ要ス然レモ談話者若シ筆記者ノ勞ヲ察シテ一語毎ニ其談話ヲ切り若シクハ同一事ヲ再三反復スルガ如クムバ決シテソノ功ナキナリ

第七是等ノ指示ニ從ヒ且ツ上ニ掲載シタル筆記練習ヲ熟習シタル者ハ最早少ク此法ニ上達シタルナラン若シ之ヲ學フ者ニシテ猶ホ一層ノ神速ヲ得ント欲セバ實際ノ習練ヲ勉メ種々ノ書ニ就テ書取ヲ爲ス可シ蓋シ神速ヲ増サンガ爲ニハ書取ヲ措テ他ニ良法ヲキナリ而シテ書取ヲ爲スニハ初ハ最モ簡單ナル語ヨリ漸ク進メテ高尙ナ

ル文學部内ニ及ホスヘシ或ハ又タ講義說教演說等ノ筆記ニ從事スルモ可ナルヘシ或ハ曾テ文字簡略法ノ原則ニ由ツテ或ル講釋ヲ全ク筆記シ盡セシトアリト云フ此簡略法ハ此書ニ記スル所ノ筆記法ニ比スレハ猶ホ遙カニ煩錯ヲ免レザル者ナリ此筆記法ヲ以テ一分時間ニ八九十語ヲ筆記スルヲ得ルカ如ク神速ナルニ至レバ如何ナル者！雖モ筆記スルニ敢テ差闕エナキニ至ルヲ得ヘシ

### ○神速ニ筆記ヲ讀ム事

筆記ヲ神速ニ讀ムモ又筆記ヲ爲スト同ク實際ノ熟練ニ由ラスムハ能ハス此筆記法ニ於テハ總テ各言語ノ形タル互ニ全ク相異ナリタル者ナルカ故ニ之ヲ讀ムニ當ツテモ敢テ文章ノ前後關係等ニ酌量ヲ費ヤスヲ要セス一目シテ明瞭ナルヲ得ヘシ然レトモ神速ニ筆記セル者ナルカ故ニ其文字較ヤ曖昧ニ成ルヲナキヲ得ス故ニ筆記シタル字形ニ見

慣レサル可ラス通常ノ文字ニ於テモ亦タ此事ナキヲ免レズ而レモ之ヲ讀ムニ當テハ其ノ全体ノ汎形ニ注目スルニ止ツテ一々精密ニ其字畫ヲ算シテ初メテ讀下スルカ如キハ決シテ之アラサル可シ是レ宛モ吾人が朋友ノ目鼻口眉等ヲ一々注視セサルモ一見シテ直ニ某タルヲ判知シ得ルト同一ナル可シ

### ○文字ノ位置

文字ノ位置トハ紙面ノ何邊ニ文字ヲ書ス可キヤナ云フナリ此法ヲ學フ者動モスレバ此ノ文字ノ位置ニ就ヒテ疑問ヲ起ストアリ此規則ヤ甚タ簡單ナリ若シ其語ニシテ唯タ一個ノ父音線ヲ有スル者タルキハ罫ノ上ニ記ス可シ之ヲ詳言セバ其線地平線ナルキハ罫ニ傍フテ記ス可シ若シ鉛垂線カ斜線ナルキハ其下部ノ端未カ罫ニ達シテ止マル様ニ記ス可シ又タ斜ニシテ且ツ上ニ向フタル線ハ罫ノ上ヨリ初メテ上

向ス可シ故ニ父音線ハ野ヨリ上ニ在リテ母音線ハ其下ニ位ス可キヲ  
記臆セヨ

若シニ語ニシテ數個ノ父音線ヲ有スル者ハ其第一ノ父音ノ下端カ野  
ニ達スル様ニ書シ他ノ線ハ之ニ準シテ書ス可シ又各線悉ク地平的  
ナルキハ野ニ傍フテ記ス可シ故ニ左ノ一語ヲ以テ此規則トス曰ク最  
初ノ鉛垂若シクハ斜向ノ父音線ハ野ノ上ニ在リト

若シ數個ノ地平線アリテ其次ニ鉛垂若シクハ斜向線ノ續クキハ筆者  
其ノ野下ニ書スヘカキ或ハ其ヨリ上ニ書ス可キカチ思考セサル可ラ  
ズ

若シ又タ無野ノ紙ヲ用ユルキハ同ク右ノ原則ニ由ル者トス委細ハ左  
ノ倒解ヲ見テ知ル可シ



### ○總結

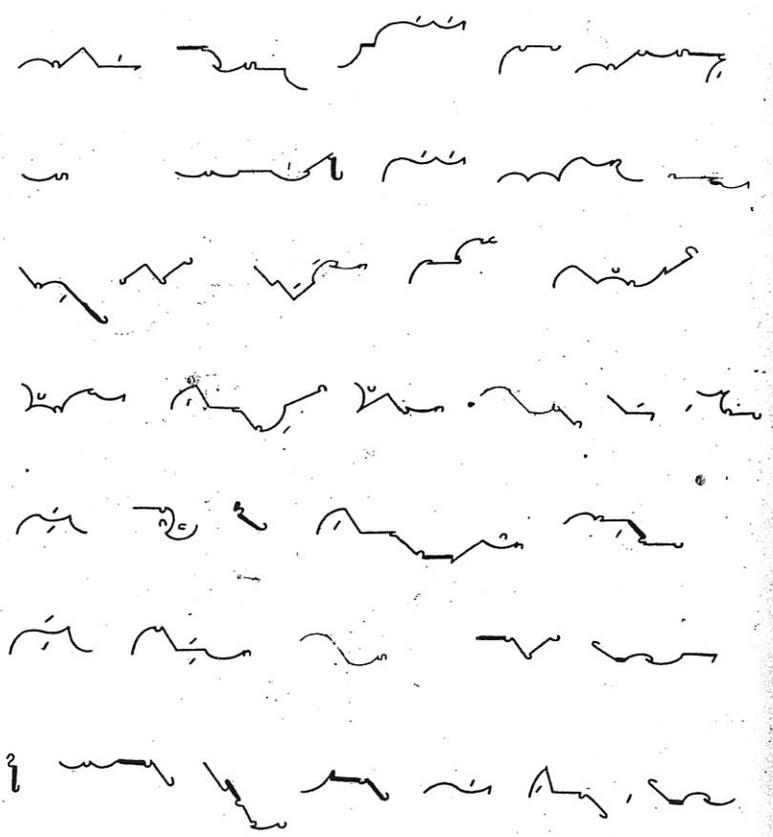
以上ニ筆記術ノ原材料ヲ詳細ニ説明シタルヲ以テ之ヲ學フ者ハ之ニ由  
テ眞實ノ佳境ニ入ルヲ得可シ

此術ヲ實用スルハ次第ニ其快樂ヲ増ス者ナリ故ニ此法ヲ熟練スルニ  
費シタル時間ヲ向後ハ有用ナル智識ヲ得テ以テ自他ニ便益ヲ與フル  
トニ費ヤス可シ

議事  
演說  
討論  
傍聽筆記新法正誤

十二丁 頭半開メア音ノ圈點ハアノ誤  
 十一行 發スルキトイ音ノ圈點ハイノ誤  
 同 音ハノ圈點ハイノ誤  
 十五丁 母音イノ記號云々ノ内圈點ハイ  
 同 三行 ノ字ノ右傍ニ附屬ス  
 十六丁 記號表三行リノ記號トレノ下記  
 號ト入レ違ヘリ  
 同 十二行 父音ナルフノ字ハ半濁音アノ誤  
 十七丁 一行附セバハハ半濁音パノ誤  
 同 同 ヒハ半濁音ピノ誤  
 同 二行 レバヘハ半濁音ベノ誤  
 同 同 ホハ半濁音ボノ誤  
 二十一丁 三行 レバハバノ誤

二十一丁 六行 クーハトノ誤  
 二十四丁 八行 可チハラノ誤  
 三十五丁 八行 對背曲線ノ事ノ右側ノ假  
 名ハ一オッポーシジグガル  
 三十七丁 七行 以テノ下回線ノ二字ヲ脫  
 ス  
 三十八丁 十二行相隔リタル記號ハ音ノ符  
 ノ三字ニ改正ス  
 三十九丁 三行 場合ハ合ノ誤  
 同 同 ルノ下ニ即チノ二字ヲ  
 脫ス  
 五十二丁 一行 上段ヲ除ク  
 五十三丁 十二行終リエノ下ニワチ脫ス  
 五十四丁 九行 一カキノ上ニエヲ脫ス  
 同 同 ギニノギハキノ誤



附録讀法練習終

五十四丁 九行  
 六十丁 九行  
 同 十二行  
 キキマシヨハデノ誤  
 キキハギノ誤  
 予ニ於ヲハテノ誤

六十一丁 十二行  
 七十四丁 八行  
 記筆練習ハ筆記ノ誤  
 カキハキカノ顛倒

1. ... ..  
 2. ... ..  
 3. ... ..  
 4. ... ..  
 5. ... ..  
 6. ... ..  
 7. ... ..  
 8. ... ..  
 9. ... ..  
 10. ... ..

1. ... ..  
 2. ... ..  
 3. ... ..  
 4. ... ..  
 5. ... ..  
 6. ... ..  
 7. ... ..  
 8. ... ..  
 9. ... ..  
 10. ... ..

Handwritten musical notation on a staff.

Handwritten musical notation on a staff, starting with a treble clef and a sharp sign.

Handwritten musical notation on a staff.

Handwritten musical notation on a staff.

讀法練習第十三

Handwritten musical notation on a staff, starting with a treble clef and a sharp sign.

Handwritten musical notation on a staff.

讀法練習第十一

一 

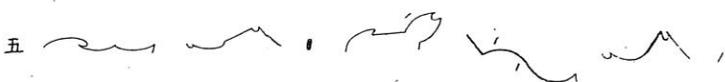


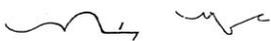
二 

三 

四 

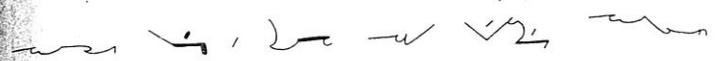


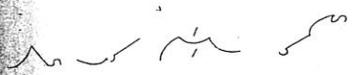
五 

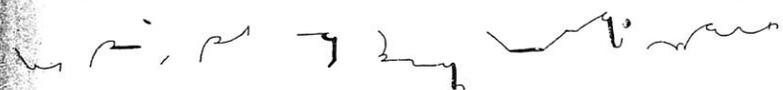


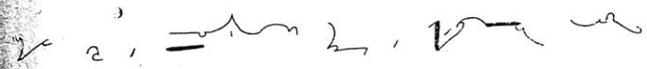
六 



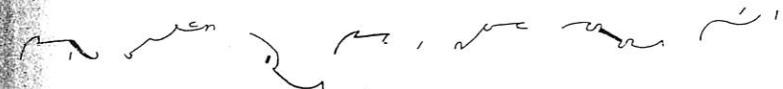








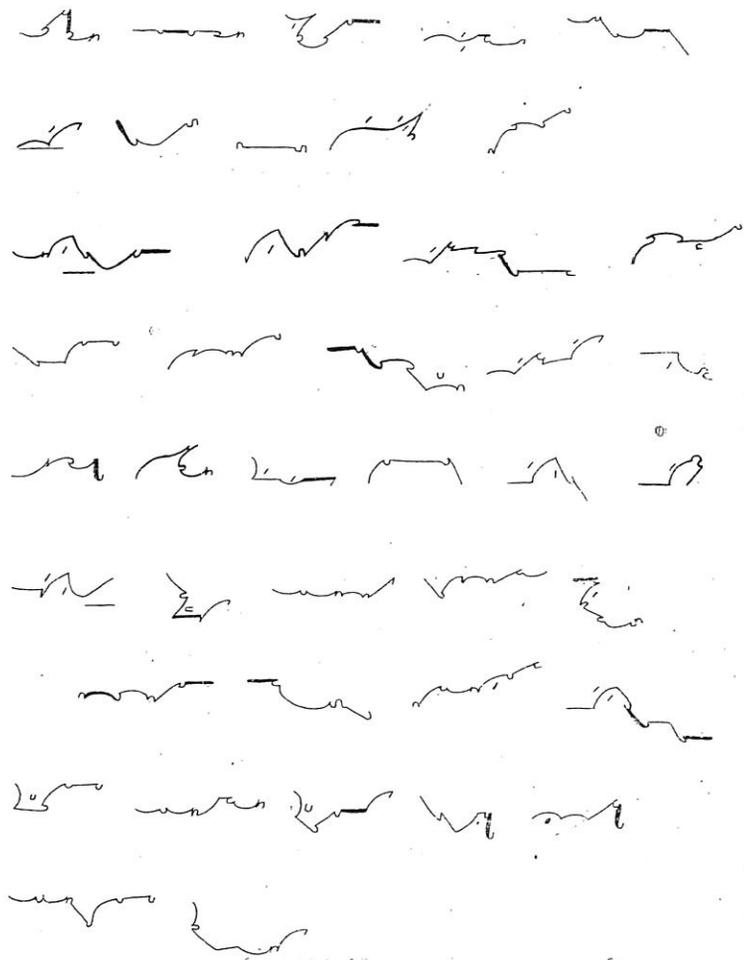




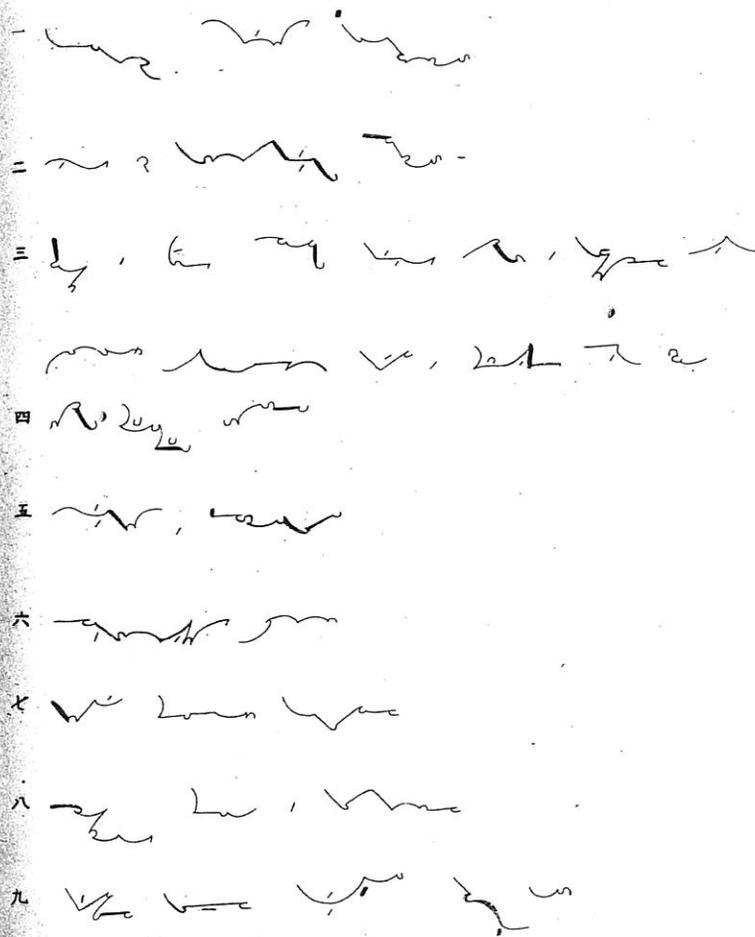




讀法練習第九



讀法練習第十



= 



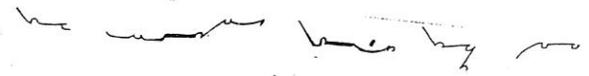




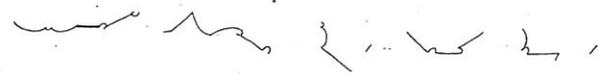
三 

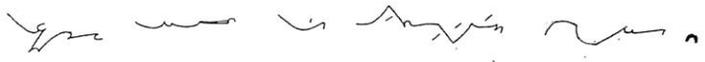


四 









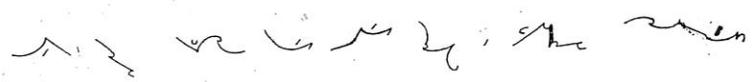


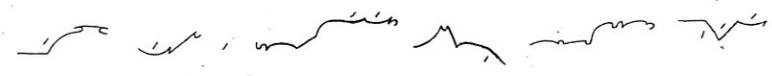




x 

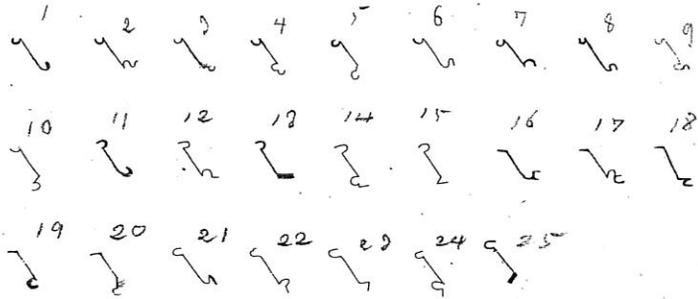








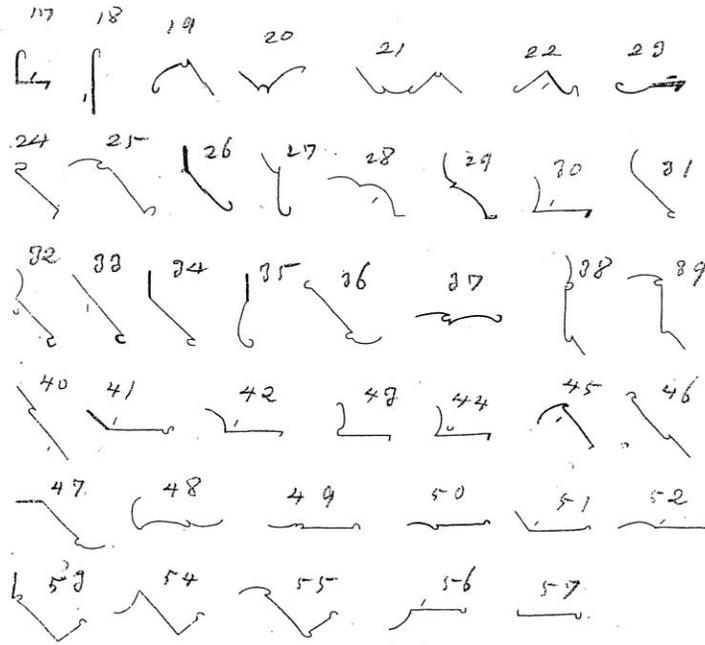
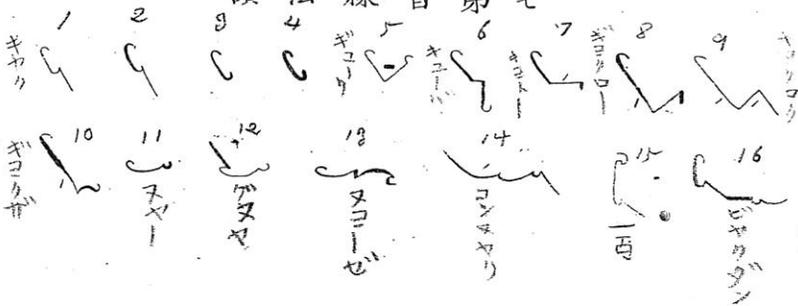
讀法練習第五



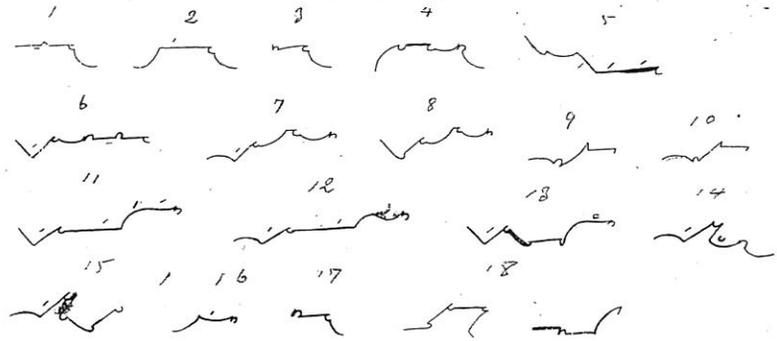
讀法練習第六



讀法練習第七



讀法練習第八



82 83 84 85 86 87 88 89 90  
 91 92 93

讀法練習第二

1 2 3 4 5 6 7 8 9  
 10 11 12 13 14 15 16 17 18  
 19 20 21 22 23 24 25 26 27  
 28 29 30 31 32 33 34 35 36  
 37 38 39 40 41 42 43 44 45  
 46 47 48 49 50 51 52 53 54  
 55

讀法練習第三

6 7 8 9 10 11 12 13  
 14 15 16 17 18 19 20 21  
 22 23 24 25 26 27 28 29

讀法練習第四

1 2 3 4 5 6 7 8 9  
 10 11 12 13 14 15 16 17 18  
 19 20 21 22 23 24 25 26 27  
 28 29 30 31 32 33 34 35 36  
 37 38 39 40 41 42 43 44 45

讀法練習第一

1 2 3 4 5 6 7 8 9

10 11 12 13 14 15

18

21 22 23 24 25 26 27

28 29 30 31 32 33 34 35 36

37 38 39 40 41 42 43 44 45

46 47 48 49 50 51 52 53 54

55 56 57 58 59 60 61 62 63

64 65 66 67 68 69 70 71 72

73 74 75 76 77 78 79 80 81